

令和4年度事業報告

博愛のこころを未来へ



佐野常民

生誕200年



日本赤十字社佐賀県支部
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

令和4年度 日本赤十字社佐賀県支部のビジョン（目標）

Mission statement〔日本赤十字社の使命〕

わたしたちは、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

日本赤十字社 長期ビジョン ～創立150年に向けて～〔目指す姿〕

国内外における人道支援活動の“要”となり、
わが国の地域医療・血液事業の中核を担う赤十字

長期戦略

〔事業戦略〕

- ・災害や紛争時における支援の充実とレジリエンスの強化
- ・超少子高齢化における地域の健康・安全な生活の追求
- ・多様化が進む社会における人道の輪の拡大

〔運動基盤強化戦略〕

- ・会員の赤十字運動への参画促進
- ・奉仕団等ボランティア主体の活動の充実
- ・国際赤十字との更なる協働

第1次中期事業計画(2020～2022年度)

令和4年度 佐賀県支部のビジョン〔目標〕

『“共に”歩み続ける。日本赤十字社佐賀県支部』

～ 記念事業をステップとして ～

優先課題〔事業推進課〕

- ① 救護能力の向上・救護体制の強化
- ② 青少年赤十字100周年記念事業を通じた学校現場との関係強化
- ③ 地域づくりを担う赤十字ボランティアの育成

優先課題〔総務課〕

- ① 赤十字会員・活動資金の増強
- ② 佐野常民生誕200年記念事業を通じた赤十字思想の普及
- ③ 経営改善に向けた予算管理〔選択と集中〕

優先課題〔両課共通〕

- ① 地区区分区との連携強化
- ② 広報の強化〔ブランド力の維持・向上〕
- ③ ICTの積極的な利活用

令和4年度 佐賀県支部事業計画

目 次

○ Mission statement	
○ 令和4年度 日本赤十字社佐賀県支部ビジョン（目標）	
○ 目 次	1
○ はじめに	2
1 救護能力の向上・救護体制の強化	5
2 国際救援活動と開発協力	16
3 赤十字講習事業の普及	21
4 青少年赤十字（JRC）の活動	25
5 赤十字奉仕団（ボランティア）による活動	36
6 赤十字思想の普及と広報活動	45
7 赤十字会員及び活動資金の増強	52
8 支部評議員会の開催	56
9 医療事業の充実（唐津赤十字病院）	57
10 佐賀県支部の組織・役職員	67
○ 日本赤十字社佐賀県支部の現勢	73

はじめに

令和4年度赤十字事業の推進につきましては、赤十字関係者をはじめ多くの県民の皆さまからご支援ご協力を賜りまして、心より厚くお礼申し上げます。

令和4年度は、令和3年度に引き続き、世界中で拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、感染拡大防止の観点から、各事業の延期や中止、又は形態を変えた縮小開催などの対応を余儀なくされました。

そのような中、日本赤十字社の創立者で郷土の偉人である佐野常民の生誕200年にあたることから、様々な記念事業や広報企画を展開しました。

また、佐賀県が実施する「プロジェクトM」への参画（医療資器材調達・保管・発送業務の受託）や、動画・冊子など各媒体による関連情報の普及・啓発等、コロナ禍において日本赤十字社の使命を果たすため、新規事業の実施についても積極的に取り組みました。

以下、各事業の実施概要をご報告いたします。

1 救護能力の向上・救護体制の強化

令和2年7月豪雨災害や令和3年8月大雨災害など、国内はもとより県内でも頻発・広域・激甚化する災害に備え、「日本赤十字社佐賀県支部防災業務計画」及び「日本赤十字社佐賀県支部防災業務実施要項」にもとづいた支部救護班要員（医師、看護師、主事等）の訓練並びにより専門性を深めた『救護班主事研修会』を、新型コロナウイルス感染症への諸課題に取り組みながら実施しました。

さらに、地域や学校などの防災・減災ニーズに応えるため、赤十字の知識、技術、資源を用いての「防災セミナー」を開催（約1,200人受講）し、防災・減災の思想普及に努めました。

2 赤十字会員及び活動資金の増強

赤十字事業を財政的に支えている本県の会員及び寄付者数は、令和5年3月31日現在個人が225,009人、法人が668社で、令和4年度に寄せられた活動資金の実績額は136,025,039円となっております。

人口動態や住環境の変化及び新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済不況の影響など厳しい社会情勢を反映して、地区・分区からの活動資金は逡減傾向にあり、令和4年度実績額は、個人の大口寄付があった前年度と比較して76.1%となりました。

佐賀県支部では、新たに、遺贈・相続財産寄付に関するセミナーを開催したほか、赤十字支援型自販機の設置、ダイレクトメールや直接訪問による法人への働きかけを強化し、財政基盤の増強に努めています。

3 記念事業を通じた赤十字思想の普及

(1) 佐野常民生誕 200 年記念事業

日本赤十字社の創立者佐野常民の生誕 200 年を記念して、博愛みらいパスの実施、記念ロゴ・グッズの作成、支部前庭の佐野常民胸像修復（有功会事業）、赤十字全職員に対する佐野歴史館映像視聴提供および「第 5 回さが維新まつり」に参加するなど様々な記念事業や広報企画を展開しました。

赤十字思想の普及、事業の紹介及び周知を図るため、支部発行の機関紙「赤十字さが」や広報チラシを県内に配布するとともに、マスコミに対して、義援金受付情報等の他、新型コロナウイルス感染症関連の活動等のタイムリーな情報を提供し、随時取材依頼を行いました。

また、県内赤十字 3 施設合同で運用をしている『3 施設合同 Facebook』や『3 施設合同 Instagram』では、平時の日赤の活動について、最新の情報を発信するなど、若年層の日赤への関心向上に努めました。

(2) 青少年赤十字（JRC）100 周年記念事業

青少年赤十字は、「苦しむ人に手を差し伸べたい」という誰もが持っている博愛の心を育むため、幼・保、小、中、高等学校の中に組織されています。

令和 4 年度は、教育行政や指導者協議会及び賛助奉仕団の協力のもと、活動の普及・啓発強化策により、251 校（園）が加盟し、メンバー総数 61,703 人、加盟率 80%を達成しています。また、令和 4 年は青少年赤十字創設 100 周年にあたることから、さまざまな記念事業を行いました。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの行事を Web による開催としました。

4 赤十字ボランティアによる活動

赤十字の使命に共感する赤十字ボランティアは、それぞれが保持する能力を活かして、災害救護や社会福祉、生活環境の改善に係る人道的諸事業の支援者、協働者であります。

特に、本県支部管内の 12 の奉仕団で組織された「佐賀県赤十字奉仕団支部委員会」の協力を得ながら、活動の充実強化と防災ボランティアの育成に努めました。

5 赤十字講習事業の普及

救急法や水上安全法、健康生活支援講習並びに幼児安全法など「尊いいのちと健康を守る赤十字講習」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を延期又は中止し、開催時には、感染防止対策を行ったうえで実施しました。

県内で 151 回開催し、約 4,800 人の方々に受講いただきました。事故防止の思想の普及と AED を使用した一次救命処置が必要な緊急時の対応など、必要な知識と技術の普及に努めました。

また、新たな取り組みとして、赤十字講習を活用した地域包括ケアシステムへの参画

事業を試行しました。

6 国際救援活動と開発協力

国際赤十字の一員としての日本赤十字社が行う世界各地で発生している紛争や自然災害の被災者に対する人道的な支援の一環として、令和4年2月24日以降のウクライナ危機支援など緊急アピールに沿った救援金の募集活動を実施しています。

また、令和4年度の12月に全国展開する「海外たすけあいキャンペーン」では、青少年赤十字メンバー、赤十字奉仕団員や有功会員及び会社員などボランティアの参加協力を得ながら県内7か所において街頭募金を実施し、日赤が行う海外救援事業の活動資金の確保に努めました。県内では期間中3,709千円（全国約7億8千万円）の救援金が寄せられました。

7 医療事業の充実

唐津赤十字病院では、佐賀県の医療計画に基づき、救急医療および急性期医療機能等の体制整備に継続的に取り組みました。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染流行がさらに拡大したため、第二種感染症指定医療機関として、県とも連携を図り、患者の受入れに努めました。前年度に比べ、医業収益は回復傾向にありますが、依然として苦しい状況は継続しています。今後も引き続き感染対策を強化しつつ、通常診療の回復を図り、安定かつ質の高い医療事業を展開できるよう努めます。

8 血液事業の推進

佐賀県赤十字血液センターでは、病気やけがで苦しんでいる患者さんに対し安全な血液を安定的に供給するため、県民の皆様に献血へのご理解とご協力をお願いしています。

また、少子高齢化が進展する中、次の「献血の担い手」となる若い世代にも献血の大切さを知っていただくために行政や献血協力団体などと連携しながら、あらゆる機会を捉えて一人でも多く方にご参加いただけるよう努めています。

平成24年度から広域事業運営体制を導入して血液事業を取り巻く環境も大きく変化しており、九州ブロック血液センターを中心として管内地域血液センターとともにブロック全体の事業運営に組織的に参画し、広域的な視点で重要課題に取り組むための体制強化に取り組んでまいります。

1 救護能力の向上・救護体制の強化

災害救護は、日本赤十字社の第一義的な事業です。大規模災害等の非常災害時における医療救護活動をはじめ、火災等による小災害に対しても被災者支援を実施しています。

佐賀県支部では、特に平成23年3月の東日本大震災や平成28年4月の熊本地震災害を教訓として、救護業務を迅速かつ効果的に行なうため、災害救護訓練、救護員の養成、救護資器材の整備、救援物資の備蓄等の救護体制強化に努めてきました。

また、令和元年佐賀豪雨災害や令和3年8月11日からの大雨災害の救護活動の経験を踏まえて、救護マニュアルの改訂や各種訓練の質を改善しました。さらに、新型コロナウイルス感染症への諸課題に取り組みながら、救護能力の一層の向上に努めました。

(1) 災害救護活動

ア 『令和4年台風14号』

9月18日（日）から19日（月）にかけて台風14号の接近に伴い、佐賀県支部は、被災者救援に備えるため18日（日）から第1次救護体制を敷くと共に、佐賀県災害対策本部へ職員1名をリエゾン派遣し、県内の被災状況の把握に努めました。

19日（月）に第1次救護体制を解除しましたが、20日（火）には、停電が発生した県内9地区を訪問し、被災状況の確認とニーズ調査を行いました。

イ 『プロジェクトM』への参画

佐賀県が新型コロナウイルス感染拡大下の医療体制を強化するために取り組む「プロジェクトM」に参画し、医療資器材の確保・供給について県からの委託を受け、医療資器材の安定した調達に努め、県内の感染症指定医療機関や受入協力医療機関等に対し、資器材を定期的に配送しました。

配布医療資器材数一覧（令和5年3月末現在）

資器材名	累計配布数
N95マスク	85,390枚
ゴーグル	6,871個
フェイスシールド	64,400枚
アイソレーションガウン	89,900着
キャップ	132,300枚
※スワブ	31,100本
ニトリル手袋	1,923,300枚
PVC手袋	2,836,350枚

※スワブ…PCR検査の検体採取用の綿棒

(2) 救護体制の整備

ア 救護班の編成

日本赤十字社は、災害等に医療救護が必要な場合に迅速に救護班の派遣ができるよう「常備救護班」を編成しています。

本県支部関係の常備救護班は、5個班（唐津赤十字病院3個班、佐賀県赤十字血液センター1個班、佐賀県支部1個班）30人で編成しています。

救護班編成基準と要員数

区 分	医 師	看護師長	看護師	主 事	計
1 個 班 の 編 成 基 準	1 名	1 名	2 名	2 名	6 名

イ D M A T の 編 成

「DMAT」とはDisaster Medical Assistance Teamsの頭文字をとった略称で「災害急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム（災害派遣医療チーム）」です。

厚生労働省が阪神淡路大震災を教訓に、災害拠点病院内に「日本DMATチーム」を編成し、大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に派遣し超急性期の救急医療を担うことを目的に編成しています。



唐津赤十字病院では、日本DMAT 3チーム（1チーム医師1名、看護師2名、主事1名）を編成し、東日本大震災や熊本地震の際に出動したほか、各種訓練や研修に参加しています。

なお、佐賀県と日赤佐賀県支部（唐津赤十字病院）は平成21年4月1日に「災害派遣医療チーム指定病院」としての協定を締結しています。

ウ 看護師の養成

救護看護師を確保するとともに、唐津赤十字病院における看護師の充足を図るため、日本赤十字九州国際看護大学（福岡県宗像市）で学ぶ学生に奨学金を貸与し看護師の養成を行っています。

なお、奨学金は1人年額60万円で継続して4年間貸与し、県支部と唐津赤十字病院が負担しています。令和4年度における救護看護師の養成は次のとおりです。

看護師奨学生の養成区分（令和5年3月末現在）

学 校 名	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
日本赤十字九州国際看護大学	0名	1名	0名	2名

(3) 災害救護訓練等の実施

ア 赤十字関連訓練及び研修・会議

(ア) 令和4年度日本赤十字社佐賀県支部常備救護班要員研修会【2部制】

令和3年度に新型コロナウイルス感染拡大防止及び実際の救護活動の内容の違い等により2部制で実施した本研修会を、令和4年度も引き続き対象職員を施設ごとに分けて実施しました。

【第1部】

- ・ 主な内容：応急対応に係る救護班要員としての基礎訓練
- ・ 対 象：唐津赤十字病院及び佐賀県支部の救護班要員
- ・ 日 時：6月4日（土）、5日（日）2日間
- ・ 場 所：唐津赤十字病院 佐野講堂、波戸岬少年自然の家

唐津赤十字病院及び佐賀県支部の救護班要員17名及び訓練スタッフ等20名の総勢37名が参加しました。新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、唐津赤十字病院新型コロナウイルス感染症対策本部会議と密に連携し感染対策を図り、出水期前に実施することができました。カリキュラムについては、令和元年佐賀豪雨災害や令和3年8月11日からの大雨災害の救護活動の経験を踏まえて、避難所アセスメントに関する内容を追加しました。



エアテント内で救護シミュレーションの様子

○訓練内容

- ①赤十字の災害救護活動の歴史・法的根拠
- ②赤十字救護班としての行動規範・心得
- ③救護体制と救護班
- ④救護班の編成と管理運営
- ⑤日赤の救護活動の実際
- ⑥出動命令が出されたら
- ⑦1次トリアージ
- ⑧情報収集と管理（無線の取り扱い、クロノロジー記入）
- ⑨職種別演習（医師・看護師：2次トリアージ、主事：無線等）
- ⑩こころのケア（班員のストレスケア）
- ⑪救護活動時に使用する各種様式
- ⑫エアテントを使用した救護所設営の手順確認
- ⑬救護シミュレーション（急性期対応）
- ⑭避難所アセスメントシミュレーション

【第2部】

- ・主な内容：支部災害対策本部運営及び本部支援
- ・対 象：佐賀県赤十字血液センターの救護班要員
- ・日 時：10月17日（月）1日
- ・場 所：日本赤十字社佐賀県支部 2階会議室他

佐賀県赤十字血液センターの救護班要員6名及び訓練スタッフ11名の総勢17名が参加しました。令和3年8月11日からの大雨災害の対応経験を踏まえて、より実践的なカリキュラムでの研修を実施しました。



支部災害対策本部設営訓練中の救護班要員

○訓練内容

- ①赤十字の災害救護活動の歴史・法的根拠
- ②赤十字救護班としての行動規範・心得
- ③赤十字の救護体制と支部の役割
- ④日赤の救護活動の実際
- ⑤出動命令が出されたら
- ⑥こころのケア（班員のストレスケア）
- ⑦『支部災害対策本部立ち上げのシミュレーション』（レイアウトと解説）
- ⑧『避難所アセスメントのシミュレーション』（環境・健康アセスメントと報告まとめ）
- ⑨『日常生活における災害への備えについて』（自助・共助・BLS）

○運営委員会

- 4月13日 第1回運営委員会（唐津赤十字病院）
5月11日 第2回運営委員会（ 〃 ）
12月7日 第3回運営委員会（ 〃 ）

（イ）令和4年度日本赤十字社佐賀県支部救護班主事研修会

日赤救護班要員の主事の業務は、平時の通常業務と異なるにも関わらず複雑で多岐に渡るため、災害時、被災地でスムーズかつ効果的に活動を行うには、事前の研修や訓練が欠かせません。その主事に特化した研修会を令和2年度から開催し、今回、3回目を開催しました。

唐津赤十字病院5名、佐賀県赤十字血液センター2名の主事7名並びに訓練スタッ



情報を整理する救護班主事

フ等13名の総勢20名が参加し、感染防止対策を取りながら実施しました。

- ・主な内容：主事に必要な知識、技術、態度を習得すること
- ・対 象：救護班要員の主事職に任命される職員
- ・日 時：2月23日（木・祝）1日
- ・場 所：唐津赤十字病院 佐野講堂他

○訓練内容

- ①救護班要員としての主事とは
- ②日赤の救護活動の実際と変遷
- ③基礎行動
- ④救護活動時に使用する通信手段
- ⑤EMISの取り扱い
- ⑥出動準備～活動～撤収（机上シミュレーション）
- ⑦医師等から見た主事について

(ウ) 令和4年度九州八県支部合同災害救護訓練

九州北部に停滞した秋雨前線により福岡県が被災した場合を想定して、久留米赤十字会館（久留米市）をロジスティックスセンター※として活用し、支部災害対策本部との連携等についての評価・検証を行いました。また、九州各県の赤十字との支援・受援の手順、ICTを活用した情報共有の手法について検証しました。今回は、新型コロナウイルス感染症を考慮して、救護班の実動訓練は行いませんでした。本訓練には、佐賀県支部職員4名が参加しました。

- ・日 時：11月3日（木・祝）～4日（金）2日
- ・場 所：久留米赤十字会館（久留米市）、福岡県支部（福岡市）

○運営委員会

- 7月11日 第1回運営委員会（Web会議）
- 10月11日～12日 打ち合わせ会議（久留米赤十字会館）

(エ) 令和4年度第6ブロック通信訓練

災害時、固定電話や携帯電話など通常の通信網が使用不能となった場合を想定し、九州各県支部の緊急連絡系統整備・確立することを目的に、毎月第3水曜日に実施しました。

(オ) 令和4年度災害看護論研修（唐津赤十字病院 10月29日（土）1日）

唐津赤十字病院看護師13名、運営スタッフ（日本赤十字社佐賀県支部）2名、研修担当者1名の総勢16名が参加しました。救護活動に必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の看護実践能力を養うことを目的に実施しました。

○研修内容

- ①赤十字の災害救護活動
- ②出動命令が出されたら
- ③基礎行動
- ④救護倉庫と資器材の確認
- ⑤エアテントを使用した救護所設営の手順確認
- ⑥救護活動時に使用する各種様式
- ⑦救護活動時に使用する通信手段
- ⑧災害救護シミュレーション

(カ) 令和4年度唐津赤十字病院こころのケア研修（唐津赤十字病院 12月5日(月)）

唐津赤十字病院看護師14名、公認心理師1名、指導者2名の総勢10名が参加し、救護活動におけるこころのケアについて必要な知識・技術・態度を身につけ、災害時の実践能力を養うことを目的に実施しました。

○研修内容

- ①日本赤十字社のこころのケア
- ②災害時のストレスとストレス反応
- ③被害者へのこころのケア
- ④救護員へのこころのケア
- ⑤こころのケアの実際（グループワーク/ロールプレイ）

(キ) こころのケア指導者養成研修会（本社 11月16日（水）～17日（木））

救護活動の重要な柱の一つである災害時におけるこころのケア活動を実践する救護員の指導者を養成する研修会に唐津赤十字病院看護師1名が参加しました。

(ク) 日赤災害医療コーディネート研修会（本社 1月21日（土）～22日（日））

日赤災害医療コーディネートチームの活動能力向上を目的にチーム要員を養成する研修に唐津赤十字病院医師1名がスタッフとして、日本赤十字社佐賀県支部1名が受講者として参加しました。

イ 自治体関係

(ア) 航空機事故総合訓練（佐賀空港、10月23日（日）：半日）

佐賀県支部2名、唐津赤十字病院2名、佐賀県赤十字血液センター1名が参加し、DMATや消防等の関係機関と協働して、「通報訓練」、「トリアージ地区・救護所等設置訓練」を実施しました。

(イ) 佐賀県原子力防災訓練（10月29日（土）：半日）

唐津赤十字病院において、県や長崎大学と協働して、傷病者受け入れ・処置訓練を行いました。佐賀県支部では、佐賀県原子力災害対策本部との情報伝達訓練を行いました。

(ウ) 佐賀市総合防災訓練（11月13日（日）：半日）

佐賀県支部2名、赤十字ボランティア2名が参加し、佐賀市立小中一貫芙蓉校グラウンドにおいて、市、消防、その他関係機関と協働して応急救護所設置訓練、傷病者受け入れ訓練を行いました。

(エ) 令和4年度佐賀県災害対策図上訓練（佐賀県庁、6月3日（金）：1日）

佐賀県支部1名、佐賀県赤十字血液センター1名が参加し、佐賀県災害対策本部の災害初期を想定した対応訓練に、指定公共機関として状況付与等を行い、関係機関との「顔の見える関係」を構築することができました。

(オ) 令和4年度佐賀県国民保護図上訓練（佐賀県庁、1月19日（木）：1日）

テロを想定した対応図上訓練に、佐賀県支部1名、佐賀県赤十字血液センター1名が参加しました。

(カ) 令和4年度佐賀県災害医療従事者研修（佐賀県庁、1月21日（土）：1日）

佐賀県救急医療協議会が主催する県内の災害医療従事者を対象とした研修に佐賀県支部2名が参加しました。

(キ) 佐賀県防災会議委員との意見交換会（佐賀県市町会館、5月30日）

佐賀県防災会議委員である佐賀県支部事業推進課長が参加しました。

（４）防災教育事業指導者の育成と赤十字防災セミナーの開催

ア 防災教育事業指導者養成研修（本社 10月6日～7日）

全国で実施される「日本赤十字社防災教育事業」の普及・拡大に伴い、事業(セミナー)の指導・運営を行う指導者を養成する研修に、支部職員1名が参加しました。

佐賀県支部防災教育事業指導者 (令和5年3月末現在)

所属	人数
支部職員	3名
奉仕団員	8名

佐賀県支部防災教育事業主任指導者 (令和5年3月末現在)

所属	人数
支部職員	1名

イ 防災講習会（赤十字防災セミナー）の開催

令和元年佐賀豪雨災害を始め、大雨や台風、地震など自然災害が頻発する中、地域住民の防災に対する意識がこれまで以上に高まっています。そのニーズに応えるため、地域防災組織や学校などへ出向き、赤十字が保持している知識や技術をもとに、自助・共助の考えや応急手当、災害食作りなどをカリキュラムとした「赤十字防災セミナー」を開催し、新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら、自分のいのちは自分で守る「自助」の考えや事前に備えることの重要性を訴えました。



防災セミナーの開催状況

実施回数	参加者数	セミナーの内容
23回	1,227人	○防災講話 … 災害への備え、自助共助の役割、避難のルール、避難所での生活、非常持ち出し品の準備 ○応急手当 … ストッキング・毛布・新聞紙等を応用した手当（ <u>デモンストレーションのみ</u> ） ○災害食作り … ハイゼックス（炊飯袋）を使った炊き出し訓練（ <u>飲食は伴わず</u> ）

（5）赤十字防災ボランティアとの連携

ア 令和4年度防災ボランティア緊急連絡訓練及び「日赤さが防災ボランティアセンター」立ち上げ・運営訓練（佐賀県支部奉仕団室 10月15日（土）、令和5年3月18日（土））
災害時、防災ボランティアが迅速かつ効果的に救護活動を実施するため、支部からの支援要請を緊急連絡網で伝達・回答し、支部に参集後は、防災ボランティアセンターの立ち上げと、防災ボランティアリーダーを中心に運営できることを目的に実施しました。

【第1部】

参加人数：防災ボランティア29名（内、防災ボランティアリーダー2名）

支部職員4名

- 内容：①防災ボランティア緊急連絡訓練
②災害時の赤十字ボランティアについて
③防災ボランティアセンターの運営等について
④「日赤さが防災ボランティアセンター」のレイアウト説明
⑤救護資器材の現地説明

【第2部】

参加人数：防災ボランティア29名（内、防災ボランティアリーダー3名）

支部職員5名

内 容：①防災ボランティア緊急連絡訓練

② 実災害を想定した「日赤さが防災ボランティアセンター」

設置運営

- ・ 救援物資の輸送支援
- ・ 「日赤さが防災ボランティアセンター」設置方法
- ・ 義援金の受付支援

（6）救護資機材の整備

資機材及び救援物資の保有備蓄状況

令和4年度末における救護活動に必要な資機材の保有状況及び救援物資の備蓄状況は次のとおりです。

ア 救護資機（器）材の保有状況

（令和5年3月末現在）

品 名	数 量	品 名	数 量
救急車	2台(1)	発電機	5基(1)
災害救援車	7台(2)	投光器	6台
災害連絡車	2台	防雨ヘッドランプ	40個(4)
医療セット	2組(2)	防護用ゴーグル	40個(10)
担架	20台(5)	防護用ヘルメット	35個(4)
簡易ベッド	26台(6)	折り畳み式机	6台
災害救護用パソコン	1台	無線基地局(150MHZ)	3局
災害救護用通信機器(Wifi)	1機	車載無線機()	28台(5)
パイプテント	27張	携帯無線機()	14台
ドラッシュテント	1セット	無線基地局(400MHZ)	1局
エアーテント大	3セット(2)	車載無線機()	7台
エアーテント小	2セット(1)	携帯無線機()	15台
イーザーアップ・テント	22張	車載衛星電話	2機
NBC災害除染セット	1セット	可搬型衛星電話	1機(1)
デジタル個人線量計	42個	折り畳み舟艇	1隻
空間線量率測定用サーベイメータ	1台	折り畳みリヤカー	2台
防護服セット	42セット	非常用炊き出し釜	22台
災害用トイレ	12据	DMA T資器材	1セット(1)
自動体外式除細動機(AED)	2台	浄水器	1台

※ () カッコ内は唐津赤十字病院及び地区分区の備蓄数（内数）

イ 救援物資の備蓄状況（地区区分備蓄分含む）（令和5年3月末現在）

品目	年度当初	整備	配付	年度末備蓄
毛布 (枚)	1,419	0	56	1,363
タオルケットセット (組)	254	0	24	230
バスタオル (枚)	771	0	66	705
緊急セット (個)	520	0	44	476
安眠セット (組)	421	0	1	420
ブルーシート (枚)	110	0	0	110
非常食 (食)	578	0	0	578

(7) 災害見舞金・見舞品の贈呈

令和4年度は、火災により罹災された33世帯に対し、次のとおり救援品及び見舞金・弔慰金を贈呈しました。



毛布・安眠セット



緊急セット

ア 令和4年度に提供した見舞金等

世帯数	毛布	バスタオル	緊急セット	見舞金等(円)
33	56	66	40	290,000

(8) 国内義援金

これまでに国内で発生した地震・豪雨・台風などによる災害被災者に対し、令和4年度に県民の皆様から寄せられた義援金は、日赤本社並びに被災県の日赤支部（被災県の配分委員会）を通じて被災者に全額届けられました。

内 訳	件 数	金 額 (円)
平成30年7月豪雨災害義援金	1	92
令和2年7月豪雨災害義援金	34	135,412
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	10	51,492
令和4年7月大雨災害義援金	11	26,618
令和4年8月3日から的大雨災害義援金	73	1,491,224
令和4年台風15号災害義援金	9	38,227
合 計	138	1,743,065

(9) 臨時救護

公共性が高く多人数が参加するスポーツ大会やイベント等へ救護班(員)を派遣しています。

救護班(員)派遣状況

派遣回数	派遣延日数	派遣人数(医師・看護師・主事・赤十字奉仕団)	応急手当をした人
7回	9日	28名	1名

2 国際救援活動と開発協力

現在世界では、相次ぐ紛争や頻発する自然災害、急速に進む人口増加や深刻な貧困により、1億人以上もの人々が命をつなぐための支援を必要としています。さらに、新型コロナウイルス感染症の拡大や、ロシアによるウクライナへの侵攻など、これまで以上に様々な支援が必要とされています。

このような状況の中、日本赤十字社の国際活動は、赤十字国際委員会（ICRC）及び国際赤十字・赤新月社連盟の調整の下、世界192の国や地域に広がるネットワークを通じて、こうした紛争や災害の犠牲者に対する緊急救援や復興支援をはじめ、開発途上国における貧困や保健衛生の改善、減災対策など、中長期的な開発支援活動に取り組み、人道的任務の達成に努めています。

- | | |
|------------------|---|
| ○独立国 | 195カ国（日本政府承認） |
| ○国連加盟国 | 196カ国 |
| ○国際赤十字・赤新月社連盟加盟国 | 192カ国
（赤十字157カ国、赤新月社34カ国、ダビデの赤盾社1カ国） |



がれきの中の被災者を救出©SARC
(トルコ・シリア)



厳しい状況に苦しむ女性を元気づける
ウクライナ赤十字社ボランティア
(C) ウクライナ赤十字社

(1) 本社の活動

日本赤十字社は、紛争や災害の被災者、難民等を救援するために国際赤十字や国内の赤十字組織と連携しながら、医療救護要員や開発支援要員を養成・派遣するとともに、物資や資金の提供など緊急支援や中長期的な支援活動を迅速かつ計画的に実施しています。

これらの事業に要する資金は、国民の皆様から日赤本社及び各都道府県支部に寄せられる尊い社資・寄附金（災害救援金）・NHK海外たすけあい募金や国際救援金とその財源となっています。



子どもたちを対象としたこころのケア
(C) パレスチナ赤新月社



被災地で捜索・救助活動を行うスタッフ
(C) パキスタン赤新月社

ア 最近の日本赤十字社による主な緊急救援・復興支援実施事業

事業名	実施年	実施内容
トルコ・シリア地震	令和5年～	海外救援金の募集、資金援助・物資支援、巡回診療の実施、心理社会的支援（こころのケア）、パレスチナ難民キャンプ支援、食料支援
ウクライナ人道危機	令和4年～	緊急資金援助、ウクライナ国内への人員派遣（国際倉庫の管理、仮設診療所設営、寄贈した装置の操作方法指導）、可搬型X線撮影装置寄贈、ポーランドへの心理社会的支援事業要員派遣
パキスタン洪水	令和4年～	救援物資（防水シートや毛布、キッチンセット）、緊急資金援助、国際赤十字を通じたパンジャブ州・シドン州の住宅支援事業への資金援助、事業のモニタリング・評価者を派遣
インドネシア・スラウェシ島地震救援	平成30年～ 令和2年	保健医療アドバイザー派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出、郡仮設診療所・村保健所の再建、インドネシア赤十字社支部血液センターの改築・移動献血者の整備
バングラデシュ南部避難民救援	平成29年～	医療チーム派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出、母子保健を含む診療サービスの提供、地元の医師や看護師・助産師の育成、避難所ボランティアにおける地域での保健衛生の促進、心理社会的支援（こころのケア）
中東(シリア他)人道危機救援	平成23年～	医療要員の派遣を通じたパレスチナ赤新月社の医療技術・人材育成の支援、シリア国内における避難民支援、レバノン国内のシリア難民のための水衛生管理支援

イ 最近の日本赤十字社による主な長期的人道支援の取り組み

事業名	実施年	実施内容
ルワンダ気候変動等レジリエンス強化事業	令和元年～	経済的に特に貧しい郡において、気候変動の影響と考えられる災害や感染症、貧困などの社会課題に対して、水と衛生、環境緑化、生計支援などを通して地域の人々のレジリエンス能力を強化する。
アフガニスタン気候変動対策事業	令和2年～	気候変動による影響の大きい地域において、防災・減災に関する知識を普及し、また、農業指導など生計手段の獲得を支援することで人々の災害対応能力とレジリエンスを強化する。
インドネシア防災強化事業	令和2年～	災害リスクの高い地域において、地域住民による自主防災組織を結成し、知識普及や訓練を行うとともに、学校での防災教育を実施する。また、インドネシア赤十字社の実施体制を整備することで、地域の人々のレジリエンスを強化する。
ネパールコミュニティ防災強化事業	令和3年～	災害リスクの高い地域において、防災・減災に関する知識を普及し、ネパール赤十字社の災害即応体制を整備することで、地域の人々のレジリエンスを強化する。
国際赤十字・赤新月社連盟を通じた支援	毎年実施	連盟への支援を通じてアジア大洋州・アフリカにおいて、赤十字・赤新月社の組織強化（活動の担い手であるボランティア育成等）や防災、保健衛生改善等の支援ニーズの高い中長期的な活動に貢献する。



地域連帯クラブの会議の様子
(C) 日本赤十字社（ルワンダ）



赤十字ボランティアが設置した津波からの避難標識
(C) インドネシア赤十字社（インドネシア）

(2) 佐賀県支部の活動

ア 国際救援活動

令和4年度に県民から寄せられた国際救援金は、日赤本社に送金し、被災国の緊急支援事業及び復興支援事業に役立てられました。

※支部直接扱い分

内 訳	件 数	金 額 (円)
中東人道危機救援金	5	23,000
バングラデシュ南部避難民救援金	5	18,613
アフガニスタン人道危機救援金	4	14,437
ウクライナ人道危機救援金	402	26,744,637
2022年アフガニスタン地震救援金	7	11,545
2022年パキスタン洪水救援金	2	1,758
2023年トルコ・シリア地震救援金	221	16,227,620
「NHK海外たすけあい」寄付金	9	911,370
無指定海外救援金	0	0
計	655	43,952,980



リヴィウ州のリハビリテーションセンターで支援調査にあたる日本赤十字社の理学療法士
(C) 日本赤十字社 (ウクライナ)

イ 「海外たすけあい」運動

日本赤十字社はNHKとの共催により、「第40回海外たすけあい」キャンペーンを、12月1日から12月25日まで実施しました。佐賀県支部では12月17日(土)に県内7カ所において赤十字奉仕団員、有功会員、青少年赤十字メンバー、企業の社員など約210名の参加を得て街頭募金活動を実施しました。

令和4年度の「海外たすけあい」では、本県で、3,709,929円、全国では約7億8千万円の寄附金が寄託され、世界各地の紛争や自然災害などで苦しむ人々のために活用されています。

「海外たすけあい」街頭募金活動の実績

会 場		実績額
佐賀市	J R 佐賀駅	61,306円
	ゆめタウン佐賀	81,239円
	イオン佐賀大和店	40,278円
唐津市	イオン唐津店	121,128円
鳥栖市	フレスポ鳥栖	62,425円
	マックスバリュ鳥栖村田店	45,726円
武雄市	ゆめタウン武雄	24,797円
合 計		436,899円



ウ 安否調査

日本赤十字社では、災害発生時や有事の際に在住・滞在する外国人の安否調査を赤十字国際委員会（I C R C）や各国の赤十字社と連携・協力して行い、そこで見つかった家族の再会（離散家族の再会）ができるようにしています。

このほかに、紛争などで連絡手段を絶たれた人々や抑留された人々が I C R C を通じて離れた家族と交わす手紙（赤十字通信）を、日本国内に住む宛先人まで届けるなどの活動を行っています。

3 赤十字の講習事業の普及

「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、県内各地で人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識や技術を伝える講習会を実施しました。

新型コロナウイルス感染症から受講者や指導員、職員の安全を確保するために、開催時は安全対策として、「会場の変更」「分割による開催」「事前学習導入による講習時間の短縮」などの措置を講じ、さらに、手指消毒薬と資機材消毒用品を配備しました。実技は、人工呼吸や接触する実技を避けるなどの制限を設け、専用のチェックリストや健康チェック表を活用し、関係者全員の健康状態の確認とマスク着用を徹底しました。また、講習資機材の貸し出しや「動画で見る一次救命処置」をはじめ動画教材を案内するなど、普及方法を工夫しながら、関係者すべての健康と安全を守ることに努めました。AEDの講習については、ショックボタンを有さない自動体外式除細動器（オートショックAED）の製造販売が開始されたことを踏まえ、従来のショックボタンを有するAEDとの相違点、使用上の注意点及び情報提供等を行うなど、最新情報を講習内容に取り入れました。



(1) 救急法

最新の国際的ガイドラインや指針に基づき日常生活における事故防止や手当ての基本、胸骨圧迫やAEDの使い方、災害時の心得についての知識と技術を習得できる講習会を開催しました。

(受講者数 3,532人)



救急法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救急法基礎講習	21回	527人	525人	525人
救急員養成講習	11回	239人	237人	237人
短期講習	65回	2,766人		

(2) 水上安全法

水の事故から尊い人命を守るために必要な泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法、着衣泳など、自分自身の安全を保ちながら、安心して水と楽しく関わるための知識と技術を普及しました。(受講者数 723人)



水上安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救助員 I 養成講習	1回	8人	8人	8人
短期講習	17回	715人		

(3) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすために役立つ知識や、家庭や地域での高齢者支援に役立つ知識・技術の習得と実践を通して、健康維持・増進の思想と互いに助け合う心を育む講習を開催しました。(受講者数 38人)

健康生活支援講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	0回	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止		
短期講習	3回	38人		

(4) 幼児安全法

子どもの尊い生命を守り、社会全体で子どもを大切に育てるために、事故予防とケガや病気の手当ての方法、救命手当などの知識や技術の普及を目的に、保護者や保育園・幼稚園の職員、地域の子育て支援サポーターを対象に実施しました。(受講者数 506人)



幼児安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	1回	6人	6人	6人
短期講習	32回	500人		

(5) 講習資機材の貸し出し

・心肺蘇生用人形及びAEDトレーナー 14回

(6) 指導員研修会

赤十字の各種講習は、講師が指導する指導員養成講習の検定に合格し、指導員資格を取得した多くのボランティアの活動により開催されています。指導員は、赤十字の協力者として、人のいのちと健康を守る方法を広く普及するための知識や技術を有しているだけでなく、講習を通じて赤十字そのものも普及推進します。毎年、赤十字講習の知識・技術・指導法の維持向上を目的とする指導員研修会を開催しています。

指導員研修会

期日	研修名	会場	参加者
5月13日 14日	救急法指導員伝達研修会	日本赤十字社 佐賀県支部 (Web配信あり)	22人 29人
5月7日	水上安全法指導員伝達研修会	SAGAアクア (Web配信あり)	14人
7月3日	幼児安全法指導員伝達研修会	日本赤十字社 佐賀県支部 (Web配信あり)	14人
2月12日	健康生活支援講習指導員及び 幼児安全法指導員伝達研修会	日本赤十字社 佐賀県支部	17人

指導員在籍状況

講習種別	ボランティア	支部	病院	血液センター	計
救急法指導員	53人	5人	3人	4人	65人
水上安全法指導員Ⅱ	24人	1人	1人	3人	29人
健康生活支援講習指導員	2人	1人	3人	2人	8人
幼児安全法指導員	16人	1人	1人	1人	19人

(7) 講師研修会

講習の普及推進と講習指導及び指導員育成等に必要な知識や技術の向上を図り、新型コロナウイルス感染症流行時における講習普及事業の対応等について理解する目的で開催されました。

講師在籍状況

講習種別	講師数
救急法	2人
水上安全法	1人
健康生活支援講習	2人
幼児安全法	2人

講師研修会参加状況

研修会名・会議名	開催形式	回数
救急法講師研修会	本社参集	1回
水上安全法講師研修会	本社参集	1回
健康生活支援講習講師研修会	本社参集	1回
幼児安全法講師研究会	Web	7回
	本社参集	1回
幼児安全法講師研修会	本社参集	1回

(8) 地域包括ケア事業への参画

医療や介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるよう、地域で支える「地域包括ケア事業」。

全市町へのアンケート調査や訪問聞き取りを基に、赤十字講習・セミナーを活用し、一般介護予防事業における市町の行う『通いの場づくり』への貢献を図りました。

期日	研修名（講習種別）	会場	参加者
2月16日	上峰町「通いの場サポーター」例会 （健康生活支援講習）	上峰町老人福祉センター おたっしや館	12人
3月1日	佐賀市生活・介護支援サポーター 養成講座（健康生活支援講習）	佐賀市役所 大財別館	13人
7月3日	介護予防・生活支援サポーター フォローアップ講座（救急法）	大町町総合福祉 保健センター 美郷	7人

4 青少年赤十字（JRC）の活動

青少年赤十字活動は、幼稚園・保育園、小・中・高等学校・特別支援学校の児童生徒が、学校教育や日常生活の中で赤十字精神を身につけ、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう実践と体験を基にした学習を学校や地域において実践しています。

《態度目標》

「気づき・考え・実行する」

《3つの実践目標》

- ・生命と健康を大切にする（健康・安全）
- ・人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する（奉仕）
- ・広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う（国際理解・親善）



出前講座「世界の国のことを知ろう」
(国際理解・親善)

青少年赤十字活動は、県・市町の教育委員会、青少年赤十字加盟校で構成する青少年赤十字指導者協議会、青少年赤十字賛助奉仕団、青年赤十字奉仕団との一体的取り組みにより行われています。

令和4年度は、青少年赤十字が日本に創設されて100周年の記念すべき年であったことから、様々な記念事業を実施しました。



高校トレセン：ワーク・ショップ



支部見学：千代田中部小学校

(1) 青少年赤十字創設100周年記念事業

令和4年は、青少年赤十字創設100周年にあたることから、本社や佐賀県青少年赤十字指導者協議会及び青少年赤十字賛助奉仕団と連携の上、記念事業や広報企画を展開しました。

ア 青少年赤十字創設100周年オープニングイベント（Web開催）への参加
『みらいのあなたへ、やさしさを』

青少年赤十字が創設から100年を迎える記念すべき日に、オンラインを活用したオープニングイベントに佐賀県立神埼高等学校 松尾一志先生が出演されました。全国

の中学生・高校生メンバーが参加し、赤十字や青少年が大切にしていることや人道の心などについての理解を深め、様々な視点から青少年赤十字を学ぶ機会となりました。

- ・開催日 5月5日（木・祝）
- ・形式 Web形式で中継
- ・参加者 全国の中・高校生の青少年赤十字メンバー、青少年赤十字指導者、日本赤十字社職員 450人



イ 青少年赤十字100周年記念DVDの配布

「青少年赤十字創設100周年オープニングイベント」を収録したDVDを県内の全加盟校に配布しました。

ウ 青少年赤十字創設100周年記念書籍の配布

記念書籍『青少年赤十字のひみつ』を県内の加盟小学校と加盟中学校に配布しました。

エ 「博愛みらいバス」の実施

青少年赤十字100周年記念と佐野常民生誕200年の記念を併せて、日本赤十字社の創設者である佐野常民の”博愛のこころ”を子どもたちに伝えるために、県内各地のJRCメンバーと一緒に『佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館』を巡るバスツアーを開催しました。



<三神地区>

- 開催日 6月19日（日）
- 場所 神埼駅～佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館
- 参加者数 2名（小学5年生・高校1年生 各1名参加）
- 内容 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館の見学

<東松地区>

- 開催日 10月16日（日）
- 場所 唐津赤十字病院～佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館
- 参加者数 19名（小学生17名・引率教諭2名参加）
- 内容 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館の見学

オ 「私の考える青少年赤十字」作品募集
 青少年赤十字の加盟校の児童生徒が青少年赤十字の一員であることを意識し、今後の活動活性化を目的として県内加盟小学校・中学校・高等学校にメッセージ作品の募集を行いました。41名の応募があり、作品は10月に開催した「佐賀県青少年赤十字加盟校長等研修会」会場に展示しました。



カ 「100周年記念寄せ書き旗」作成
 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターに参加した高校生と指導者、および青少年赤十字指導者育成研修会に参加した指導者が、『未来のあなたへ、やさしさを』テーマに、赤十字と青少年赤十字の未来へメッセージを書き込みました。旗は、「佐賀県青少年赤十字加盟校長等研修会」会場に展示しました。



キ 青少年赤十字創設100周年記念国際交流事業（web開催）への参加

<第1部>

開催日 10月2日（日）日帰り
 場所 日赤佐賀県支部
 参加者数 2名（佐賀女子高1年生1名・教諭1名参加）
 他 支部職員 1名

<第2部>

開催日 11月5日（土）日帰り
 場所 日赤佐賀県支部
 参加者数 4名（佐賀女子高等学校1年生2名・教諭1名参加）
 （県立多久高等学校1年生2名・教諭1名参加）
 他 支部職員 2名

開催日 10月6日（日）日帰り
 場所 日赤佐賀県支部
 参加者数 4名（佐賀女子高等学校1年生2名・教諭1名参加）
 （県立多久高等学校1年生2名・教諭1名参加）
 他 支部職員 2名

(2) 青少年赤十字加盟校の構成

ア 登録状況

(令和5年3月31日現在)

校 種	加 盟 校 数	メ ン バ ー 数	指 導 者 数
幼稚園・保育園	13	1,368	337
小 学 校	118	26,843	2,060
中 学 校	77	21,120	1,775
義務教育学校	6	2,344	258
高 等 学 校	33	9,642	999
特別支援学校	4	386	149
合 計	251校(園)	61,703	5,578

※小・中・高校のJRC加盟校は、全体の約80%で全国平均の約34%を大きく上回っています。

イ 青少年赤十字加盟校一覧

(令和5年3月31日現在)

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・特別支援学校	計	
佐賀市	博愛の里こども園、 本庄幼稚園、鍋島幼稚園、 嘉瀬保育園、 <u>高岸幼稚園</u> 、 <u>にじのはねこども園</u> 、 新栄、思斉、中川副、 大詫間、南川副、西川副、 東与賀、久保泉、31 佐大附属、富士、若楠、 諸富北、北山東部、本庄、 巨勢、日新、諸富南、 三瀬、高木瀬、西与賀、 嘉瀬、松梅、勸興、 赤松、鍋島	佐大附属、城南、 昭栄、城東、金泉、 諸富、富士、三瀬、 大和、川副、城北、 東与賀、佐賀清和、 鍋島、松梅、思斉、 弘学館、龍谷	佐賀東、佐賀工業、 龍谷、北陵、佐賀北、 佐賀女子、佐賀学園、 佐賀商業、高志館、 致遠館、佐賀西、 清和、弘学館、 盲学校佐賀大和特支、 <u>星生学園</u>	16	65
唐津市	<u>すみれ幼稚園</u> 、 大良、平原、成和、湊、 馬渡、呼子、田野、外町、 長松、久里、切木、大志、 簗木、鬼塚、佐志、玉島、 竹木場、北波多、浜崎、 西唐津、東唐津、相知、 納所、入野、小川、七山、 27	第一、鏡、鬼塚、佐志、 相知、肥前、七山、 西唐津、馬渡、小川、 17 高峰、海青、第五、 巖木、浜玉、湊、 唐津東	唐津東、唐津南、 唐津西、巖木、 唐津特支分校	5	49
鳥栖市	虹の子保育園、 レインボー保育園、 あいりす保育園、 <u>神辺幼稚園</u> 、 <u>鳥栖ルンビニ幼稚園</u> 、 13 基里、田代、若葉、 弥生が丘、麓、鳥栖北、 旭、鳥栖	基里、田代、鳥栖西、 5 鳥栖、香楠	鳥栖、鳥栖商	2	20

(3) 活動状況

ア 指導者対象

(ア) 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会（福岡県主催）Web開催

開催日 8月20日（土）
場所 佐賀市立巨勢小学校
参加者 山口 拓也（巨勢小学校教諭）
他 支部職員1名

(イ) 全国指導者協議会総会（本社）Web開催

開催日 6月29日（水）
場所 日赤佐賀県支部
参加者 宮原 孝子（中川副小学校長：指導者協議会会長）
他 支部職員2名

(ウ) 6ブロック指導者協議会長・支部担当者合同会議（福岡県）Web開催

開催日 2月21日（火）
場所 日赤佐賀県支部
参加者 宮原 孝子（中川副小学校長：指導者協議会会長）
他 支部職2名

(エ) 佐賀県指導者協議会役員会（第1回）web開催

開催日 5月7日（金）
場所 日赤佐賀県支部から配信
参加者数 32名

(オ) 佐賀県指導者協議会総会 web開催

開催日 5月7日（金）
場所 日赤佐賀県支部から配信
参加者数 148名

(カ) 佐賀県指導者協議会役員会（第2回）Web開催

開催日 2月24日（金）
場所 日赤佐賀県支部から配信
参加者数 21名

(キ) 佐賀県青少年赤十字指導者育成研修会 日帰り2日間

開催日 6月24日（金）
8月3日（水）トレセン小学校の部
8月4日（木）トレセン中学校の部
場所 ホテル龍登園（6月24日分）

北山少年自然の家（トレセン体験）

参加者数 1日目：13名 トレセン体験：9名
指導スタッフ数 1日目：34名 トレセン指導：（小）33名（中）26名

(ク) 佐賀県青少年赤十字指導者協議会 第4回理事研究会

開催日 6月24日（金）
場所 ホテル龍登園
参加者数 19名

(ケ) 佐賀県青少年赤十字加盟校長等研修会

開催日 10月27日（木）
場所 メートプラザ佐賀
参加者数 176名



研修Ⅰ「学校教育と青少年赤十字について」



研修Ⅱ「青少年赤十字創設100周年記念」リレートーク
テーマ ～つなぐ つづける つくる 青少年赤十字～



イ メンバー対象

(ア) 青少年赤十字スタディー・プログラムWeb開催&参集（本社）

開催日 3月21日（火） 3月25日（土）
場所 日赤佐賀県支部・日赤本社
参加者 Web開催（県立多久高等学校1年）山口 あみ
岩永 祥佳
（佐賀女子高等学校1年）高尾 美月
岸川 純奈
参集（県立多久高等学校1年）山口 あみ
岩永 祥佳

(イ) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターの実施

※新型コロナウイルス感染防止のため、日帰り開催及び募集人数の制限にて対応

<小学校の部>

開催日 8月3日（水）日帰り1日
場所 北山少年自然の家
参加者数 54名

<中学校の部>

開催日 8月4日(木) 日帰り1日
 場所 北山少年自然の家
 参加者数 35名

<高等学校の部>

開催日 7月23日(土) リモート(事前研修) 午後半日
 7月29日(金) 日帰り1日
 場所 日赤佐賀県支部・北山少年自然の家
 参加者数 11名(※7月23日は12名参加)

(ウ) 博愛フェスタでの博愛発表会

開催日 12月11日(日)
 場所 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館
 発表校 中川副小学校、西唐津中学校、多久高等学校

(エ) 国内交流(千葉県JRCと中川副小学校との交流会) web開催

開催日 2月17日(金)
 場所 中川副小学校
 参加者 中川副小学校5年生・千葉県JRCメンバー10名
 交流内容 各県の特徴紹介、それぞれのJRC活動の紹介

(オ) 優良メンバー、グループ表彰

青少年赤十字活動が特に顕著であった学校に対し、各学校長の推薦により、今年度は下記メンバー及びグループを表彰しました。

<優良メンバー表彰> 6名

氏名	学校名	氏名	学校名
石松穂乃花	神崎市立脊振中学校	内村 洸誠	神崎市立脊振中学校
畠田 麻菜	県立太良高等学校	松下 翠莉	県立致遠館高等学校
眞島 夢摘	佐賀女子高等学校	淵上 悠	佐賀女子高等学校

<優良グループ表彰> 7団体

グループ名	グループ名
脊振中学校生徒会	長松小学校福祉委員会一同
上峰小学校ボランティア委員会	佐賀女子高等学校
北方中学校生徒会	太良高等学校JRC部
多久高等学校JRC部3年生	

(カ) JRC 高校メンバー協議会活動（月定例会の活動）

高校メンバー協議会は、月1回佐賀県支部等において定例会を開催し、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」などの活動を自分たちで企画運営しています。



5月：「歴史館の見学」



5月：「JRCの紹介」



6月：「熱中症について」



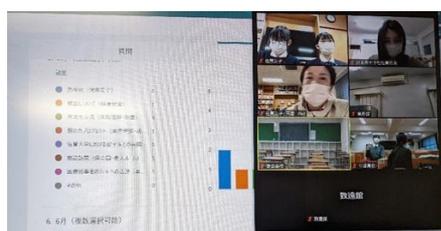
9月：「環境問題」Zoom会議



10月：「役員改選」



11月：「役員会①」Zoom



12月：「役員会②」Zoom



1月：「健康について」



3月：3年生を送る会



3月：聴覚障害について



手話の体験

ウ その他の活動

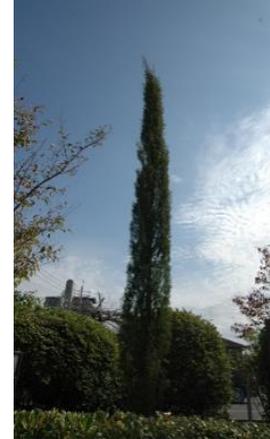
(ア) 青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈（10年・5年）

10月28日にメートプラザ佐賀で開催しました青少年赤十字加盟校長等研修会において、青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈を行いました。

- ① 10年以上 継続校（園）36校
- ② 5年～9年 継続校（園）3校

- (イ) 青少年赤十字賛助奉仕団による加盟校に対する「イトスギ」贈呈
青少年赤十字加盟校長等研修会時において、加盟校に対し賛助奉仕団が育苗した糸杉の贈呈を行いました。

「糸杉」は赤十字・青少年赤十字のシンボルツリーであり、県内で加盟歴の長い学校から順に、平成24年度より贈呈を行っています。



○ 「糸杉」贈呈校

- ① 小城市立砥川小学校
- ② 小城市立三里小学校
- ③ 唐津市立第五中学校
- ④ 東原摩舎東部校
- ⑤ 鍋島幼稚園

(ウ) 青少年赤十字防災教育講話

- ① ためになる！青少年赤十字防災学習
(千代田中部小学校6年生) (大草野小学校5年生) (西有田中学校)
(本庄幼稚園) (鍋島小学校4年生) (大町ひじり学園) (鳥栖西中学校)
(三根東小学校5年生) (千代田中部小学校3年生) (弥生が丘小学校)
- ② 防災セミナー「防災講話」「災害食づくり」(玄海みらい学園)
- ③ 災害時シミュレーション体験 (御船が丘小学校5年PTA行事)
- ④ 幼稚園防災教材「きけん はっけん」(高岸幼稚園PTA行事)

(エ) 青少年赤十字講話

- ① J R C講話 (千代田中部小学校6年生) (三根東小学校5年生)
- ② 国際理解・親善に係る講話 (千代田中部小学校6年生)
- ③ トレセン紹介講話 (千代田中部小学校6年生)
- ④ 日赤探検隊でのJ R C講話&施設見学 (千代田中部小学校3年生)

(オ) 県教育センター講座「学校防災講座」参加者48名・支部より指導者派遣

(カ) 学校安全総合支援事業

佐賀県教育委員会が文部科学省の委託を受けて、自然災害や交通事故に対しての安全教育を推進する取り組みに、推進委員および学校安全アドバイザーとして関わりました。

会 場	実施日	内 容
基山中学校	6月 30日 (木)	実践委員会への参加
塩田中学校	7月 8日 (木)	実践委員会への参加
塩田中学校	9月 8日 (木)	防災講話
基山中学校	10月 7日 (金)	防災講話
塩田中学校	12月 15日 (木)	実践委員会への参加
基山中学校	12月 20日 (火)	実践委員会への参加
県 庁	1月 23日 (月)	推進委員会への参加

(キ) 青少年赤十字加盟校等で行われた義援金・救援金募集（支部扱い分）
（令和5年3月末現在）

内 訳	件 数	金 額
ウクライナ人道危機救援金	11	154,055円
2023年トルコ・シリア地震救援金	9	246,296円
「NHK海外たすけあい」寄付金	3	22,145円
合 計	23	422,496円

5 赤十字奉仕団（ボランティア）による活動

赤十字奉仕団は、人道博愛の赤十字精神に賛同し、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成された奉仕者の組織です。

佐賀県支部では、地域赤十字奉仕団のほか青年赤十字奉仕団と特殊赤十字奉仕団が組織され、様々な活動を展開しています。また、奉仕団同士が、より主体的・積極的に活動できるよう連携強化のため「佐賀県赤十字奉仕団支部委員会」を設置しています。

（1）地域赤十字奉仕団

本県の地域赤十字奉仕団は、市地区・町分区において地域婦人会を中心に結成されており、災害が発生した場合には地域において機動的に救援活動等を行う重要な奉仕団です。

ア 結成状況

（令和5年3月31日現在）

団名	団数	団員数	委員長
佐賀県地域赤十字奉仕団	25 団	2,641 名	山口 七重

イ 一品供出金運動

災害等に遭われた被災者に救援の手を差し延べ生活再建を支援するため、救援資金として毎年団員一人当たり 20 円が拠出されています。

令和4年度は下記のとおり一品拠出金より日赤佐賀県支部に寄附されました。

NHK海外たすけあい寄附金・・・・・・・・・・ 30,000 円

ウクライナ人道危機救援金・・・・・・・・・・ 30,000 円



NHK 佐賀放送局で行われたオープニングセレモニー
（地域赤十字奉仕団の山口委員長による
NHK 海外たすけあい寄附金の贈呈）



ウクライナ人道危機救援金贈呈式

(2) 青年赤十字奉仕団

若い力と行動力を社会に役立てようと学生等で結成された組織で、「防災/減災啓発」、「HIV/AIDS 感染予防啓発」、「JRC 活動支援」、「献血推進」、「その他奉仕活動」など、様々な活動を展開しています。

ア 結成状況

(令和5年3月31日現在)

団名	団員数	委員長
佐賀県青年赤十字奉仕団	18名	執行 亜由美



バルーンフェスタ清掃



「防災」に関する勉強会



青少年赤十字高校メンバー協議会の定例会サポート

(3) 特殊赤十字奉仕団

特殊赤十字奉仕団は、様々な専門技術を持つ人や、特定の奉仕活動を行おうと集まった人々によって組織されており、それぞれの特徴を生かした活動を実践しています。本県には9つの特殊奉仕団と、日赤本社が直轄する赤十字飛行隊佐賀県支隊があります。

ア 結成状況

(令和5年3月31日現在)

団名	団員数	委員長
佐賀県赤十字救急法奉仕団	30名	瀬戸 弘美
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	23名	佐藤 洋
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	14名	牛草 達雄
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	58名	夏秋 正倫
佐賀県赤十字看護奉仕団	25名	門田 直子
佐賀県赤十字無線奉仕団	22名	江口 信彦
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	19名	一ノ瀬 安信
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	5名	矢ヶ部 登志子
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	21名	下村 京子
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	5名	田中 正照

(4) 活動状況

ア ボランティアの育成

(ア) 支部または奉仕団主催研修会への参加

① 赤十字ボランティア基礎研修会

期 日	実施主体	会 場	参加者
5 月 22 日	青年赤十字奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	12名
11 月 28 日	看護奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	12名

② 佐賀県赤十字奉仕団研修交流会（支部委員会との共催）

奉仕団間の協働や相互支援により各奉仕団の枠を超えた多角的な奉仕活動を展開し、奉仕活動の充実を図ることを目的に平成 26 年度より研修交流会を開催しています。

また、平成 29 年度より各奉仕団から実行委員を選出し、支部指導講師と実行委員による研修交流会の企画・運営を行っています。

令和 4 年度は、佐野常民生誕 200 年を記念し、「博愛のこころをみらいへ」をテーマに、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館の視察研修を実施しました。

日付	会 場	活動内容	受講者
1 月 14 日	佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館	奉仕団研修交流会	28 名



令和 5 年度奉仕団研修交流会
(佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館)



「博愛のこころを未来へ」メッセージづくり

③ 佐賀県赤十字奉仕団研修交流会実行委員会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

※奉仕団研修交流会の運営は支部指導講師が実施

④ 奉仕団機関誌「凌風丸」の発行

令和2年度及び令和3年度の奉仕団研修交流会の中止により、支部委員会の交流活動の一環として標記機関誌を作成、発行しました。

なお、作成にあたり編集委員会を設け、支部指導講師と青年奉仕団が委員となり編集作業を行いました。



奉仕団機関誌「凌風丸」の表紙
(令和5年8月発行)



編集委員会メンバー
(支部指導講師、青年奉仕団員)

⑤ 赤十字防災ボランティア研修会

期日	内 容	会 場	参加者
10月15日	日赤さが防災ボランティアセンター 設置運営訓練 (基礎編)	日本赤十字社 佐賀県支部	29名
3月18日	日赤さが防災ボランティアセンター 設置運営訓練 (応用編)	日本赤十字社 佐賀県支部	29名

⑥ 支部指導講師打ち合わせ

期日	内 容	会 場	参加者
4月15日	基礎研修会打ち合わせ	Web	9名
9月12日	奉仕団研修交流会打合せ①	日本赤十字社佐賀 県支部	10名
12月27日	奉仕団研修交流会打合せ②	日本赤十字社佐賀 県支部	10名
2月9日	奉仕団研修交流会反省会 支部委員会総会資料確認	日本赤十字社佐賀 県支部	10名

(イ) 赤十字ボランティア・リーダー研修会

期日	会 場	参加者
8月27日 ～28日	日本赤十字社佐賀県支部 (Web開催)	執行 亜由美 (青年赤十字奉仕団) 田島 愛舞 (青年赤十字奉仕団) 吉岡 和香 (支部職員)
1月28日 ～30日	日本赤十字社佐賀県支部 (Web開催)	松崎 かめ代 ※講師として参加 (救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団)

イ ボランティア関係行事

(ア) 支部または奉仕団主催行事

① 佐賀県支部

日付	活 動	参加奉仕団	回数
12月1日 ～25日	海外たすけあい募金活動 (NHK 窓口受付業務)	青年、救急法、看護、 しゃちの会	16回
随時	各種赤十字講習普及・指導	救急法、水上安全、 幼児安全	148回
随時	防災セミナーの普及・指導	青年、救急法、水上安全、 幼児安全法、特殊輸送	11回※
随時	臨時救護 (トレセン除く)	看護	2回
随時	支部内作業	しゃちの会	月1回

※ 支部職員が実施した回数を除いています。



NHK 佐賀放送局特設窓口



佐野常民像除幕式 受付

② 地域赤十字奉仕団

日付	主催者	会 場	活動内容	参加者
6月13日	佐賀県地域婦人連絡協議会	婦人会館	幼稚園・保育園向け防災教材 「ぼうさいまちさがし きけんはっけん！」研修会	36名
3月13日	佐賀県支部	佐賀県支部	茨木県支部赤十字 奉仕団との交流	1名
3月26日	長野県支部	武雄市	飯田市地域赤十字 奉仕団との交流	—

③ 青年赤十字奉仕団

日付	主催者	会 場	活動内容	受講者
5月22日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	総会・基礎研修会	12名
6月16日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	打合せ・事務作業	4名
6月22日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	トレセン倉庫片付け ・在庫確認	3名
7月16日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	定例会 (献血について)	4名
7月24日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	VS 説明会、事前準備	5名
7月29日 ～8月5日	日本赤十字社 佐賀県支部	支部 北山少年自然の家	青少年赤十字 リーダーシップ トレーニングセンター (小・中・高)	3名
10月7日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	定例会 (防災について)	5名
11月5日	佐賀市	嘉瀬川	佐賀インターナショナル バルーンフェスティバル 清掃活動	4名
12月16日	支部	佐賀県内各地	NHK 海外たすけあい 街頭募金	3名
3月18日	佐賀市	佐賀城周辺	さが桜マラソン 清掃ボランティア	1名
随時	青少年赤十字高校 メンバー協議会	日本赤十字社 佐賀県支部	定例会サポート	11名

④ 特殊奉仕団

日付	主催者	会 場	活動内容	受講者
随時	ほっと	県内3施設	介護施設等におけるケア	-
随時	特殊輸送	日本赤十字社 佐賀県支部	車両整備、タイヤ交換	3名

⑤ 佐賀県赤十字奉仕団支部委員会

日付	会 場	内 容	参加者
5月17日	日本赤十字社佐賀県支部	役員会	4名
7月9日	文書審議	総会	—
9月12日	日本赤十字社佐賀県支部	役員会	5名
10月15日	日本赤十字社佐賀県支部	発災時通報連絡訓練	—
1月14日	日本赤十字社佐賀県支部	役員会	5名
3月3日	日本赤十字社佐賀県支部	役員会	5名
3月13日	佐賀県支部	茨城県赤十字奉仕団 視察訪問・交流	5名
3月18日	日本赤十字社佐賀県支部	総会	16名
3月18日	日本赤十字社佐賀県支部	発災時通報連絡訓練	—

(イ) ブロック主催行事

① 第6ブロック青年赤十字奉仕団協議会

※隔年開催のため令和4年度は開催無し。

② 第6ブロック奉仕団委員長並びに支部担当課長会議

期日	会 場	参加者
1月18日 ～19日	日本赤十字社 佐賀県支部 (Web参加)	瀬戸 弘美 (佐賀県赤十字救急法奉仕団／支部委員会委員長) 原 香織 (支部職員)

(ウ) 本社主催行事等

① 赤十字奉仕団中央委員会

期日	会 場	参加者
5月30日 ～31日	日本赤十字社本社	瀬戸 弘美 (佐賀県赤十字救急法奉仕団 委員長)

ウ その他

(ア) 佐賀県支部赤十字奉仕団指導講師 委嘱

指導講師名	所属奉仕団	委嘱年度
牛草 達雄	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H26年度
鈴木 容子	看護奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29年度
松崎 かめ代	救急法奉仕団 / 幼児安全法奉仕団	H29年度
夏秋 正倫	青少年赤十字賛助奉仕団	H30年度
秋山 芳美	青少年赤十字賛助奉仕団	R元年度

(5) 奉仕者功労表彰

ア 日本赤十字社表彰

平成24年度九州八県赤十字大会を当県支部が開催したことを契機に、毎年度永年赤十字活動に尽力され、功績のあった奉仕者を表彰しています。



表彰状授与（救急法奉仕団）

令和4年度 奉仕者功労 日本赤十字社表彰者数

奉仕団名	金色 有功章 (20年以上)	銀色 有功章 (15年以上)	支部長 感謝状 (10年以上)	支部長 感謝状 (5年以上)	計
佐賀県地域赤十字奉仕団	0	8	0	0	8
佐賀県青年赤十字奉仕団	0	0	0	1	1
佐賀県赤十字救急法奉仕団	2	0	0	0	2
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	0	0	0	4	4
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字看護奉仕団	0	2	0	0	2
佐賀県赤十字無線奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	0	0	0	0	1
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	12	0	0	0	12
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	0	1	2	0	3
計	14	11	2	5	32

イ 県政功労者 佐賀県知事表彰

(ア) 種別 福祉・保健衛生功労

(イ) 受章者 江口 信彦 (佐賀県赤十字無線奉仕団 委員長)
内村 威 (佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団 副委員長)



佐賀県赤十字無線奉仕団
江口委員長



佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団
内村副委員長

6 赤十字思想の普及と広報活動

(1) 佐野常民生誕200年記念企画

日本赤十字社の創立者で郷土の偉人である佐野常民（佐賀市川副町出身）が、令和4年に生誕200年を迎えたことから、本社、佐賀県支部、唐津赤十字病院、及び佐賀県赤十字血液センターが連携し、以下の様々な記念事業や広報企画を展開しました。

ア 記念ロゴ・グッズの作成・配布

記念ロゴマークを作成し、名刺や広報誌に掲載したり、記念グッズを製作し、各種イベント等で配布したりするなどして、佐野常民生誕200年を広くPRしました。

また、各地区・分区や佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館など、関係施設にロゴマークデータを提供し、さまざまな場面での活用を依頼しました。



フニフニうちわ、ハンドタオル、
防災ウェットティッシュ



丸房露



街灯のタペストリー
(佐賀市制作)

イ 「佐野常民先生之像」修復・除幕式の開催（佐賀県赤十字有功会事業）

令和4年6月9日（木）に日本赤十字社佐賀県支部前庭にある「佐野常民先生之像」の修復除幕式を開催しました。修復した胸像は、昭和43年に古賀忠雄氏によって制作され、50年以上の歳月で変化していましたが、佐野常民生誕200年を記念して佐賀県赤十字有功会の事業として、佐賀市出身の彫刻家 諸井健司氏に依頼し、修復されました。



ウ 「第5回さが維新まつり」への参加

令和4年10月23日（日）に開催された「さが維新まつり」に佐野常民生誕200年を記念して、県内赤十字施設が参加しました。

① 維新行列への参加

佐野常民役として山口支部長、医師役として唐津赤十字病院 宮原院長、同病院の看護師4名が看護師役に扮して約1.2キロの道のりを歩きました。

② 赤十字ブースの出展

3施設合同広報委員が中心となり、佐野常民の生涯について紹介するパネルの展示を行い、ハートラちゃん（赤十字マスコットキャラクター）と一緒にキッズ用制服（救護服・白衣・ナース服）を着用した子どもたちと記念撮影会を行いました。

③ 献血バスの配車

「さが維新まつり」の会場に献血バスを配車し、来場者に献血を呼びかけ、多くの方にご協力いただきました。



エ 博愛みらいバスの実施

青少年赤十字100周年記念と併せて、佐野常民の“博愛のこころ”を子どもたちに伝えるため、県内各地のJRCメンバーと一緒に「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」を巡るバスツアーを開催しました。（「4 青少年赤十字（JRC）の活動」参照）

オ 佐賀県支部広報誌、本社会員誌での特集記事の掲載

全国的な周知を図るため、佐賀県支部の広報誌やチラシ、本社の会員誌等で佐野常民生誕200周年記念の特集記事を掲載し、佐野常民の存在や功績をアピールしました。

【佐賀県支部発行】

- ・令和4年度全世帯配布チラシ
- ・広報誌「赤十字さが Vol.86」（春号）

【本社発行】

- ・会員誌「クロスコムブック Vol.3」（7月号）



赤十字さが Vol.86 特集記事

カ 佐野常民生誕200年記念動画の赤十字職員への視聴勸奨

社内での更なる赤十字思想の普及を目的とし、「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」にて上映されているシアター動画を佐賀市より借用し、全国の赤十字職員限定で公開しました。シアター動画の前後には、佐賀県支部にて制作・編集したプロローグとエピローグ映像を追加し、2ヵ月間限定（令和4年11月1日～12月31日）で、日本赤十字社保有のクローズドネットワーク内に配信しました。

多くの赤十字職員が本動画を視聴し、「職員としてとても誇らしい気持ちになった」「赤十字精神を次代に引き継いでいくことが私たちの使命と感じた」といった感想が寄せられました。

（2）令和4年全国赤十字大会

5月19日、明治神宮会館（東京都渋谷区）において、令和4年全国赤十字大会が、日本赤十字社名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各宮妃殿下のご臨席のもとに、開催されました。開催にあたっては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、開催規模を例年の約1,600名から約500名に縮小して行われました。（佐賀県からの参会者5名）

（3）令和4年度九州八県赤十字大会

11月22日、九州八県支部が持ち回りで開催している九州八県赤十字大会が、シーガイアコンベンションセンター（宮崎県宮崎市）において開催されました（日本赤十字社名誉副総裁寛仁親王妃殿下はご欠席）。受章(彰)者198名を含む赤十字関係者等約580名が参加しました。第2部のアトラクションとして、宮崎県都城市出身の山内達也氏によるヴァイオリンコンサートが披露されました。

金色有功章個人3人、同法人1社、銀色有功章個人3人、同法人1社、日本赤十字社感謝状個人3人、同法人3社が本大会にて受章(彰)されました。これを含む佐賀県参会者は、特別社員(会員)、地区分区関係、ボランティアなど計53名でした。

佐賀県内の全受章(彰)者は以下のとおりです。

ア 受章(彰)者御芳名（敬称略、順不同）

(ア) 日本赤十字社感謝状（金色有功章後の社資功労）

個人	松尾 幹夫 (佐賀市)	池田 一貴 (愛知県)
	古賀 常次郎 (佐賀市)	佐藤 喜美子 (佐賀市)
	嬉野 政則 (佐賀市)	松本 義孝 (佐賀市)
法人	松尾建設株式会社 (佐賀市)	株式会社平野酸素商会 (唐津市)
	久光製薬株式会社 (鳥栖市)	祐徳稲荷神社 (鹿島市)
	株式会社神近建設 (嬉野市)	
	田口電気工業株式会社 (三養基郡基山町)	
	株式会社共栄ビルパートナーズ (福岡県福岡市)	

(イ) 金色有功章（社資功労・役職功労）

個人	功 社 労 資	原田 量英（西松浦郡有田町）	野中 節子（神崎市）
		川副 武男（佐賀市）	若林 興三（佐賀市）
		古賀 嘉守（三養基郡みやき町）	
	功 役 労 職	樋口 久俊（鹿島市）	中村 希志子（鹿島市）
		宮崎 多圭子（唐津市）	
法人		ホンダカーズ佐賀株式会社（唐津市）	
		医療法人斎藤内科医院（鳥栖市）	
		医療法人平井内科（三養基郡上峰町）	
		滝見屋（小城市）	
		大隈レディースクリニック（杵島郡江北町）	
		地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館（佐賀市）	

(ウ) 銀色有功章（社資功労・役職功労）

個人	功 社 労 資	石田 清美（鳥栖市）	
	功 役 労 職	松田 一也（三養基郡基山町）	山田 恭輔（江北町）
		辻 清睦（佐賀市）	岩尾 俊佑（三養基郡基山町）
法人		株式会社ミズ（佐賀市）	
		山口産業株式会社（多久市）	
		株式会社デジタルコミュニケーションズ佐賀（佐賀市）	
		有限会社新生開発（佐賀市）	
		特定非営利活動法人NPOわかば（鳥栖市）	
		社会福祉法人常安会（唐津市）	
		永倉電気工業株式会社（神埼郡吉野ヶ里町）	

(4) 博愛フェスタ2022

12月4日から12月18日の期間、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館において、博愛精神の普及と啓発を目的とした佐賀市、佐賀市教育委員会、日赤佐賀県支部、佐野常民顕彰会の共催による「博愛フェスタ2022」が開催されました。

このフェスタの中心事業として行なわれた「全国博愛絵画展」には、全国のJRC加盟校等110の小・中学校や絵画教室から応募のあった1,305点の中から各賞が授与され、博愛大賞には鷹巣きよらさん（佐賀県有田町立有田中部小学校6年生）の『私の

お姉ちゃんと妹とおひるね』が選ばれました。入賞者の作品は期間中、歴史館に展示されました。

(5) 佐野祭

佐野常民初代社長の120回忌にあたる12月7日の命日に、川副町早津江の佐野常民生誕地において、佐野祭（例年祭）が執り行われました。この慰霊祭には、赤十字有功会や佐野常民顕彰会並びに赤十字施設幹部職員など赤十字関係者と地元有志など約60人が参拝しました。

今年も、地元の佐賀市立中川副小学校の児童も特別に参加し、青少年赤十字誓いの唱和と、佐野先生を讃える歌を合唱しました。

なお、当日、敷地内に佐野常民顕彰会が設置したモニュメントの除幕式も行われました。



佐野祭の様子

(6) 防災・減災プロジェクト「ACTION!防災・減災」

日本赤十字社では毎年3月に、過去の災害の教訓を忘れることなく、将来起きる災害に対する防災・減災意識の向上を目指し、「私たちは忘れない」キャンペーンを実施してきました。

また、東日本大震災から10年が経ち、これまでの災害から得た教訓を「わすれない」から一歩進んで、一人でも多くの方に防災・減災に関する「アクション」を起こしていただくことを目指し、令和2年度からは、プロジェクト名を新たに「ACTION!防災・減災」として実施致しました。

主な内容として、本社作成ポスターを活用した広報活動や、公式SNSでの投稿により防災・減災への意識向上を広く県民に対し呼びかけを行いました。

また、県内企業1社からは、この活動にご賛同いただき、災害救護等の活動費を含む日赤の活動資金へのご寄付をいただきました。

(7) その他の広報活動

赤十字思想の普及、事業の紹介及び周知を図るため、次の広報活動を実施しました。

ア 支部発行の機関紙「赤十字さが」86号（春号）を21,000部、87号（秋号）を21,000部作成し、地区・分区を通じ県内全世帯に回覧するとともに、有功章会員はじめ赤十字関係者に配布しました。また、本社が毎月発行している「赤十字NEWS（新聞）」2,000部を赤十字関係者などに配布しました。

支部の事業活動を広く県民に知ってもらうため、広報チラシ340,000枚を作成し、5月の赤十字運動月間中に県下ほぼ全世帯に配布しました。

イ 小、中、高等学校の児童・生徒に赤十字についての理解を深めてもらうため、「赤十字白い羽根シール」を作成し、5月の赤十字運動月間前に配布しました。

ウ 新聞、テレビ、ラジオなどの報道機関に対しては、義援金受付情報等の他、「佐野常民先生之像」除幕式や海外たすけあい等の情報を送付し、随時取材依頼を行いました。

エ 地区区分並びに青少年赤十字加盟校における行事等の際に、支部に常備している事業紹介用パネルを積極的に貸出し、活用してもらいました。

オ 日本赤十字社佐賀県支部ホームページにて、支部の活動報告の記事を積極的に発信し、12ヶ月で66件掲載した。また、事業紹介のページも見直し、内容の充実を図った。

カ 佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの県内赤十字3施設合同で運用を行っている『3施設合同Facebook』では、平時の日赤の活動について最新の情報を発信しました。

また令和元年度に開設した『3施設合同Instagram』では、特に若年層をターゲットに絞り、若年層の日赤への関心向上に努めました。

(ア) Facebook

- ① フォロワー数 1,515人 (令和5年3月末現在)
- ② 投稿に対するいいね数 306件
- ③ 年間投稿数 8本



(イ) Instagram

- ① フォロワー数 505人 (令和5年3月末現在)
- ② 投稿に対するいいね数 1080件
- ③ 年間投稿数 29本



『赤十字さが』



赤十字NEWS (新聞)



5月運動月間広報ポスター

キ 3施設合同広報委員会

佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの若手の職員で構成する広報委員会を隔月開催しました。

委員会設立から10年目となった令和4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によりイベントの多くが中止となる中で、リモート開催を取り入れる等、感染症対策を行いながら、SNSを活用し、赤十字事業の普及を積極的に行いました。

また、佐野常民生誕200周年への関心を高めることを目的に、佐賀市の「第5回さが維新まつり」へ参加しました（維新行列への参加、赤十字ブースの出展、献血バスの配車）。



3施設合同広報委員の紹介ポスター



維新まつり(赤十字ブース)の様子

ク 赤十字運動月間にかかる広報

5月の赤十字運動月間イベントとして、佐賀県庁において「懸垂幕の掲示」「パネル展示」「広報ビデオの上映」を実施し、赤十字の活動を県民の皆様へ周知しました。

また、久光製薬株式会社にご協力いただき、5月2日から15日、23日から31日までの期間に久光製薬ミュージアムで赤十字レッドライトアップを行いました。



懸垂幕の掲示（佐賀県庁）



レッドライトアップ（久光製薬ミュージアム）

7 赤十字会員及び活動資金の増強

(1) 会 員 数

一定の会費を納めていただいた会員数は、次のとおりです。 (各年度末現在)

区 分	令和3年度			令和4年度			増減(計)	
	個人	法人	計	個人	法人	計	個人	法人
会 員 ^{※1}	1,430	680	2,110	1,428	658	2,086	△2	△22
協力会員 ^{※2}	225,423	10	225,433	223,581	10	223,591	△1,852	0
合 計	226,853	690	227,543	225,009	668	225,677	△1,854	△22

※1 年額2,000円以上の会費を当該年度または前年度にお寄せいただいた個人・法人

※2 目安として年額500円以上2,000円未満の会費を当該年度にお寄せいただいた個人・法人

(2) 有功章社員数及び特別社員数

これまでに有功章及び特別社員章を受章(彰)された方は、次のとおりです。

なお、有功章受章(彰)者(個人・法人)は、(1)※1にかかわらず、現「会員」資格を有します。 (令和5年3月31日現在)

区 分	個人	法人	計	令和4年度新規受章(彰)者	
				個人	法人
金色有功章社員 ^{※3}	220	218	438	6	6
銀色有功章社員 ^{※4}	360	505	865	1	7
特 別 社 員 ^{※5}	3,936	1,427	5,363	75	24

※3 総額50万円以上の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※4 総額20万円以上50万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人及び役職功労者

※5 これまでに総額2万円以上20万円未満の会費または寄付金をお寄せいただいた個人・法人

(3) 赤十字会員増強運動

日本赤十字社はその活動理念である人道的使命を達成するために、国の内外において積極的に活動を展開し、毎年着実にその成果をあげていますが、赤十字の多岐にわたる事業活動は、会員をはじめ、県民が拠出する「活動資金」によって支えられています。会員組織の拡充強化は赤十字事業の普及と発展をもたらす最大の原動力であるので、日本赤十字社の事業について一層の理解と協力を図る必要があります。

このため、赤十字会員募集は年間を通じて行っていますが、特に、5月を「赤十字会員増強運動月間」として、地区・分区並びに地域の奉仕者をはじめ自治会や町内会など

関係各位の協力を得て、会員の確保、活動資金の増強に努めました。

ア 地区・分区事務長会議

令和4年7月20日（水）、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、Webで第1回目の事務長会議の開催し、令和3年度の事業報告及び一般会計歳入歳出決算について説明するとともに、九州八県赤十字大会等について説明を行いました。



また、令和5年3月15日（水）、佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館で第2回目の事務長会議を開催し、令和4年度の間接業務報告、令和5年度事業計画、令和5年度一般会計歳入歳出予算等について説明するとともに、九州八県赤十字大会（佐賀大会）への協力を要請しました。

（４）令和4年度活動資金募集実績

ア 総括表

（令和5年3月31日現在）単位：円

区 分	令和3年度(A)	令和4年度(B)	B/A	%
一 般 社 資	160,940,152	118,813,104		73.8
支部扱	60,126,476	18,503,258		30.8
一 般	59,972,476	17,663,258		29.5
使途指定	130,000	840,000		646.2
地区分区扱	100,813,676	100,309,846		99.5
法 人 社 資	17,837,726	17,211,935		96.5
支部扱	16,540,238	15,981,785		96.6
一 般	16,440,238	15,881,785		96.6
使途指定	100,000	100,000		100.0
地区分区扱	1,297,488	1,230,150		94.8
合 計	178,777,878	136,025,039		76.1
※使途指定を除く	178,547,878	135,085,039		75.7

※ 使途指定とは、唐津赤十字病院並びに佐賀県赤十字血液センターに対する医療機器等整備のための特定寄付金。

(5) 相続・遺言・寄付セミナーの実施

赤十字の活動と遺贈・相続財産寄付に関する周知を図るため、佐賀県司法書士会との共催で無料の「相続・遺言・寄付セミナー」を開催しました。セミナーでは、県司法書士会から相続・遺言の仕組みや寄付をととした社会貢献について説明し、日赤佐賀県支部からは「人のいのちと尊厳を守る赤十字の活動紹介」と題して、日本赤十字社の事業や災害発生時における佐賀県支部の活動等を動画とともに紹介しました。

県民の皆様の相続・遺言への関心は高く、セミナー会場の50席が満員となりました。

- ・開催日時：令和5年1月22日（日）
 - <第1部> セミナー 13：00～14：30
 - <第2部> 個別相談会 14：30～16：30
- ・会場：アバンセ（佐賀市天神3丁目2-11）
- ・参加人数：50名

佐賀県司法書士会・日本赤十字佐賀県支部 連携企画

相続・遺言・寄付 セミナー

～子供たちに、社会に、想いをつなげたい～

あなたが築き上げてきた大切な財産を、誰に託したいですか？
あなたの想いを叶えられる。遺言や相続の仕組み、寄付について一緒に学びませんか。
※無料の個別相談会も同日開催します。
お気兼ねなくお申し込みください。

参加無料
（お茶代別）

日時 令和5年1月22日(日)

第1部 セミナー 13:00～14:30
①佐賀県司法書士会による「相続・遺言・寄付講座」
②佐賀地方法務局による「相続登記義務化のご案内」
③日本赤十字社佐賀県支部による「人のいのちと尊厳を守る赤十字の活動紹介」

第2部 個別相談会 14:30～16:30
（13:00～14:30）
※相談会は、セミナー参加者限定です。
※個別サービスに要料がかかります。
※重要事項の通知や相談料を別途お申し込みください。

会場 アバンセ
（佐賀県男女共創センター・生涯学習センター）
4階 第3研修室 佐賀市天神3丁目2-11

定員 50名（お申し込み順）※定員に達した場合はお断りいたします。

主催 佐賀県司法書士会、日本赤十字社 佐賀県支部
後援 日本司法書士会連合会、佐賀地方法務局、佐賀新聞社

●お問い合わせ 平日 9:00～17:00
佐賀県司法書士会 TEL: 0952-29-0626 FAX: 0952-29-5887
1940-0643 佐賀市川原町1-30-1



「相続・遺言・寄付セミナー」
人のいのちと尊厳を守る赤十字の活動紹介

セミナー開催チラシ

イ 支部、地区区分別実績一覧表

	市 町 名	対象世帯 ①	令和4年度目標額 (①×600円) 千円未満四捨五入	実 績 額(円)				前年度実績 (円)	
				一般	法人	計	前年度 比(%)	金額	
				②	③	②+③			
支 部 扱	個 人		9,500,000	18,503,258		18,503,258	30.8	60,126,476	
	法 人		13,557,000		15,981,785	15,981,785	96.6	16,540,238	
	計 A		23,057,000	18,503,258	15,981,785	34,485,043	45.0	76,666,714	
地 区 分 区 扱	佐 賀 市	65,606	39,364,000	19,415,814		19,415,814	98.7	19,677,352	
	唐 津 市	31,134	18,680,000	12,315,524	3,000	12,318,524	100.7	12,228,024	
	鳥 栖 市	22,016	13,210,000	6,433,000		6,433,000	99.8	6,446,000	
	多 久 市	5,072	3,043,000	3,235,884		3,235,884	99.1	3,266,806	
	伊 万 里 市	14,375	8,625,000	5,305,420		5,305,420	100.0	5,303,650	
	武 雄 市	13,571	8,143,000	8,577,364		8,577,364	99.7	8,607,105	
	鹿 島 市	7,793	4,676,000	4,461,050		4,461,050	100.3	4,446,000	
	小 城 市	12,864	7,718,000	7,231,908		7,231,908	99.8	7,243,409	
	嬉 野 市	6,766	4,060,000	3,675,000	600,000	4,275,000	99.8	4,285,500	
	神 埼 市	8,935	5,361,000	5,580,000		5,580,000	97.4	5,727,200	
	市地区計 a	188,132	112,880,000	76,230,964	603,000	76,833,964	99.5	77,231,046	
	吉野ヶ里町	4,655	2,793,000	2,588,400		2,588,400	99.3	2,606,400	
	基 山 町	5,375	3,225,000	2,740,600	200,000	2,940,600	98.5	2,985,400	
	み や き 町	2,792	1,675,000	4,967,800		4,967,800	100.8	4,930,000	
	上 峰 町	7,315	4,389,000	1,782,400		1,782,400	100.1	1,780,300	
	中部管内計	20,137	12,082,000	12,079,200	200,000	12,279,200	99.8	12,302,100	
	玄 海 町	1,344	806,000	897,342	97,150	994,492	119.2	834,400	
	北部管内計	1,344	806,000	897,342	97,150	994,492	119.2	834,400	
	有 田 町	5,485	3,291,000	2,654,520	330,000	2,984,520	98.0	3,046,400	
	大 町 町	1,729	1,037,000	1,282,200		1,282,200	97.7	1,311,888	
	江 北 町	2,748	1,649,000	1,840,400		1,840,400	94.0	1,958,200	
	白 石 町	5,986	3,592,000	3,992,800		3,992,800	98.6	4,050,200	
	太 良 町	2,258	1,355,000	1,332,420		1,332,420	96.8	1,376,930	
	西部管内計	18,206	10,924,000	11,102,340	330,000	11,432,340	97.3	11,743,618	
	町 計 b	39,687	23,812,000	24,078,882	627,150	24,706,032	99.3	24,880,118	
	a + b =B	227,819	136,692,000	100,309,846	1,230,150	101,539,996	99.4	102,111,164	
総 計 A+B	227,819	159,749,000	118,813,104	17,211,935	136,025,039	76.1	178,777,878		

8 支部評議員会の開催

(1) 文書審議 令和4年4月1日上程

第1号議案 日赤佐賀県支部副支部長（久保山 善生 氏）の選出について

第2号議案 日赤佐賀県支部監査委員（西 清澄 氏）の選出について

(2) 令和4年度第1回支部評議員会 令和4年6月9日（於日赤佐賀県支部）

第1号議案 令和3年度事業報告について

第2号議案 令和3年度一般会計歳入歳出決算について

第3号議案 令和3年度医療施設特別会計歳入歳出決算について

その他 佐賀県赤十字血液センターの令和3年度事業報告について

(3) 文書審議 令和4年7月22日上程

第1号議案 日赤佐賀県支部副支部長（峰 達郎 氏）の選出について

(4) 令和4年度第2回支部評議員会 令和5年2月8日（於日赤佐賀県支部）

第1号議案 令和5年度事業計画について

第2号議案 令和5年度一般会計歳入歳出予算について

第3号議案 令和5年度医療施設特別会計歳入歳出決算について

その他 佐賀県赤十字血液センターの令和5年度事業計画について

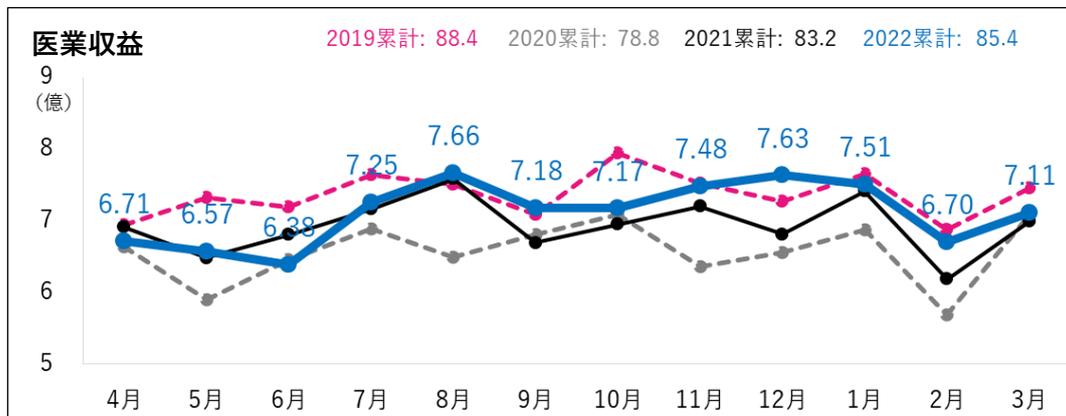


9 医療事業の充実（唐津赤十字病院）

令和4年度の重点的取組み

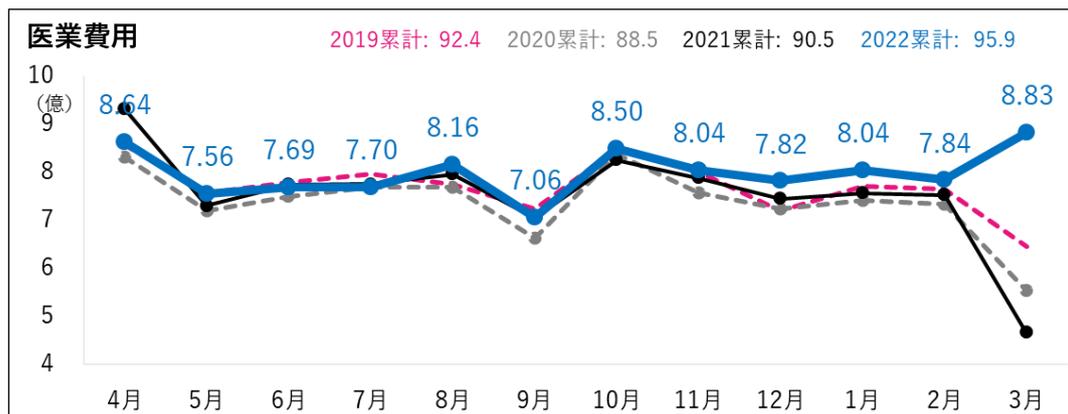
令和4年度は3つの戦略テーマである「安心・安全な医療の提供」、「地域医療連携の強化」、「働き方改革の推進」のもと、各戦略テーマに沿った行動計画を実践し、「経営状況の健全化」に努めました。経営状況の健全化に関して取り組んだ施策は以下のとおりです。

○ 医業収益の回復



・令和4年度も COVID-19 の流行が持続した影響で、医業収益はコロナ前の水準には達していませんが、若干の回復傾向にあります。

○ 医業費用の適正化



・がん治療薬等の医薬品費が高騰している影響で、医薬品費は前年度比約4%増。
 ・給与費は退職給付引当金（日赤本社により算出）の影響により前年度比約7%増。固定費・変動費ともに前年度を超える推移となったため、医業費用は前年度比約5%増となっています。

○ 診療報酬改定への対応

・新興感染症等に対応できる医療提供体制の構築に向けて、「感染防止対策加算」が「感染対策向上加算」に見直されました。当院は感染対策向上加算1（710点）を届出しており地域医療機関、医師会、唐津保健福祉事務所等と連携を強化しています。

・算定件数

感染対策向上加算1：5,403件（令和4年4月～令和5年3月）、3,791万円

※ 令和3年度： 感染防止対策加算1（390点）： 5,664件、2,209万円

・大腿骨近位部骨折患者への骨粗鬆症治療を入院早期から開始する「二次性骨折予防継続管理料1」および外来での継続診療に対する「二次性骨折予防継続管理料3」、受傷後48時間以内の大腿骨近位部骨折患者への手術実施に対する「緊急整復固定加算・緊急挿入加算」について、新規届出を行いました。

・算定件数

二次性骨折予防継続管理料1： 62件（令和4年8月～令和5年3月）

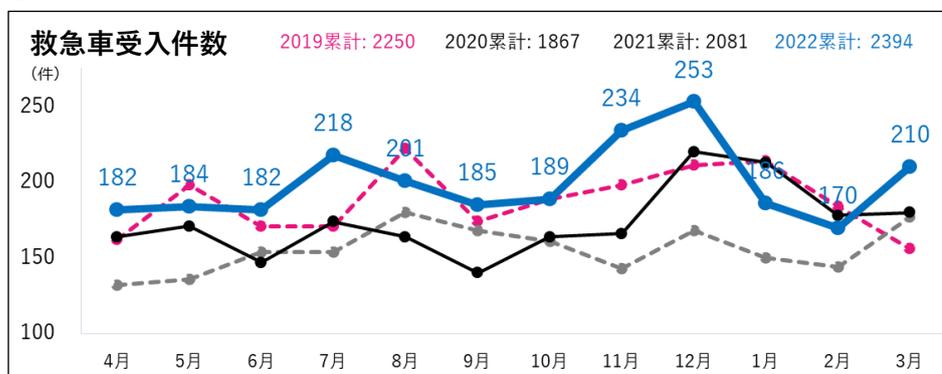
二次性骨折予防継続管理料3： 30件（令和4年8月～令和5年3月）

緊急整復固定加算・緊急挿入加算： 8件（令和5年1月～令和5年3月）

1. 安心・安全な医療の提供

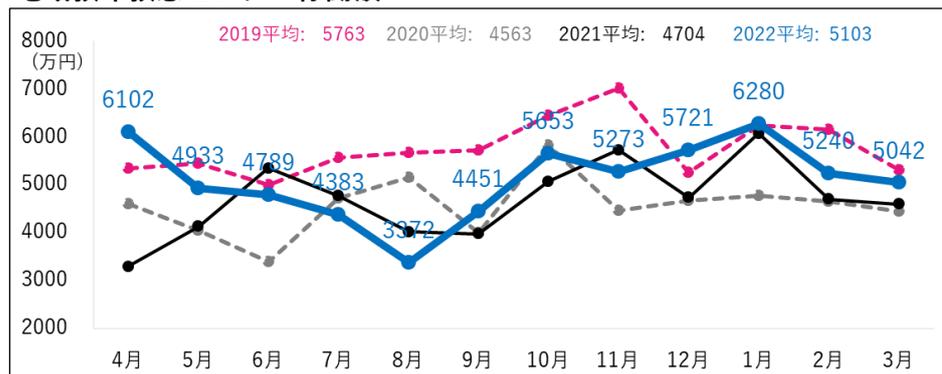
(1) 唐津赤十字病院が担うべき医療の提供

救急医療



・救急車の受入件数は前年度を大きく上回り、年間約2300台を超えますが、COVID-19症例関連搬送件数を相当数含んでいます。

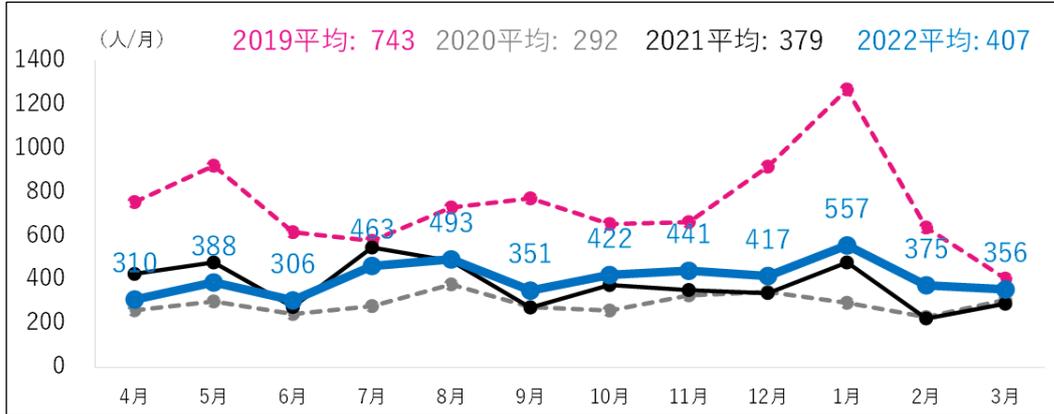
地域救命救急センター稼働額



・地域救命救急センターの稼働額は前年度を上回る推移となっていますが、COVID-19 流行前の令和元年度水準には及びませんでした。

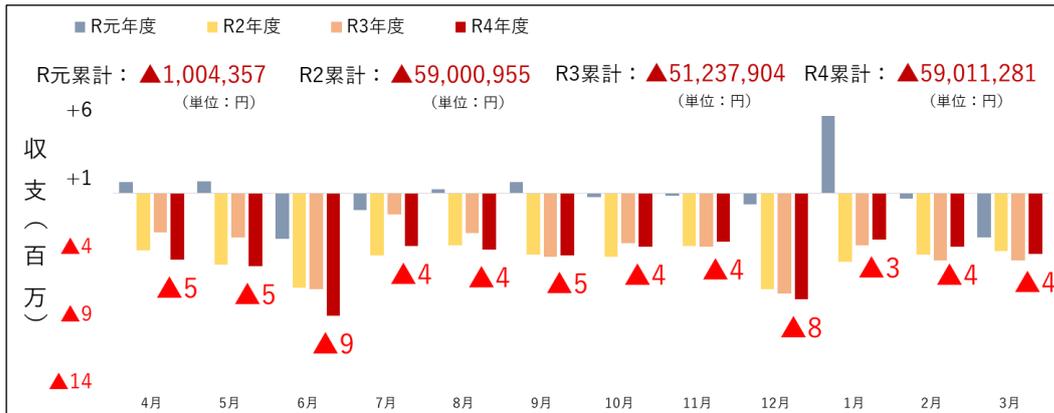
小児医療

小児救急センター患者数



・小児救急センター患者数は新型コロナウイルスの影響で低調のまま推移。

小児救急センター収支状況



・前年度よりも患者数はやや回復していますが、年間で約 5900 万円超の損失となり、コロナ禍の過去3年間で1.69億円もの損失を計上しています。

周産期医療

分娩件数



・分娩件数は新型コロナウイルスの影響で低調のままですが、ハイリスク分娩管理加算の施設基準である120件/年を満たすことができました。

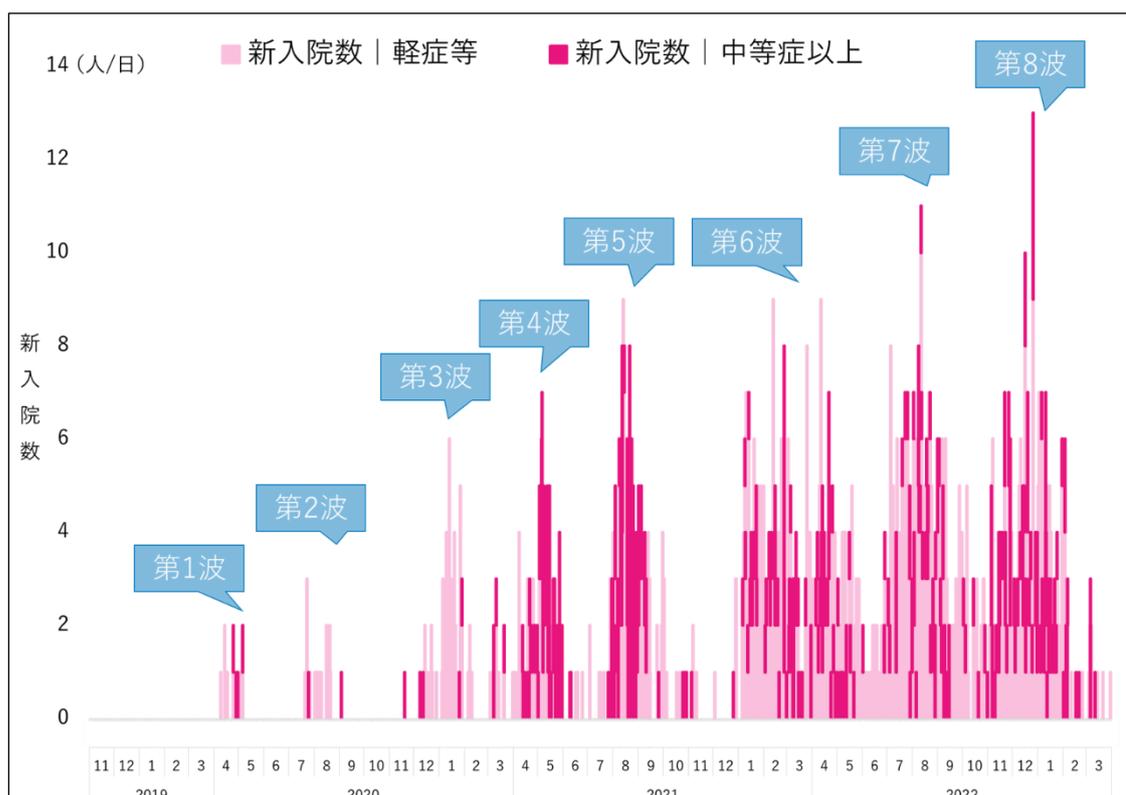
感染症医療＜新型コロナウイルス対応強化＞

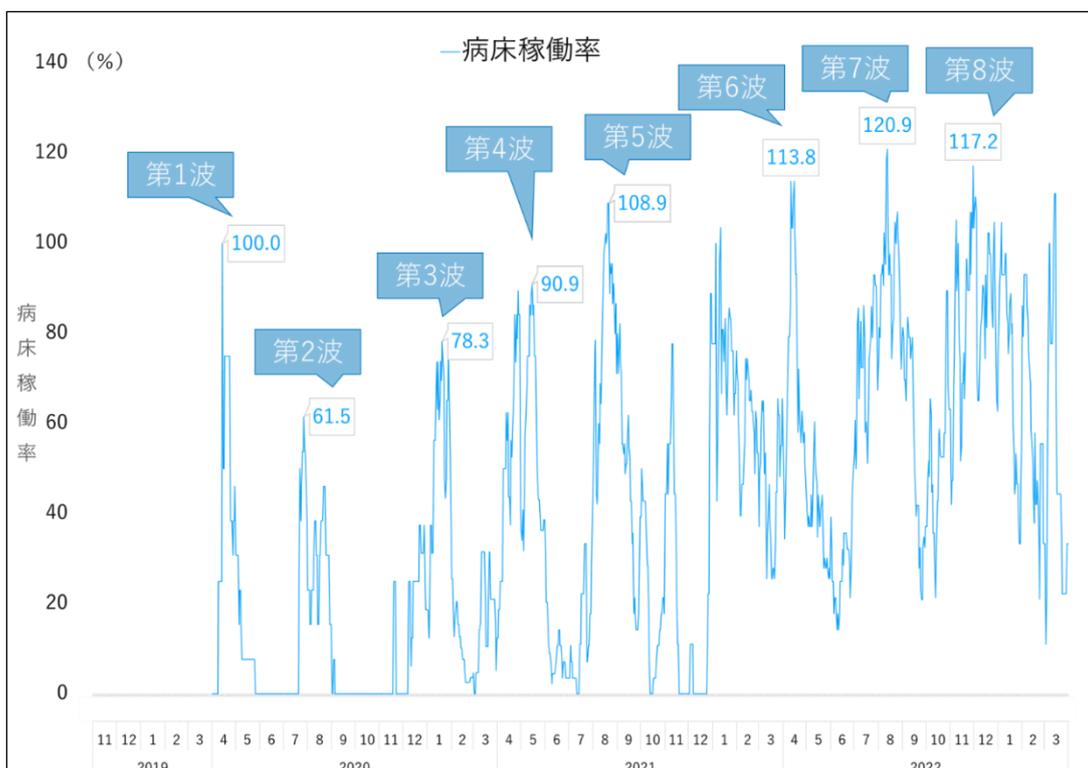
感染症病床への新入院患者数（月次推移）

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令2	8	3	0	8	12	1	0	1	10	41	5	12	101
令3	34	75	5	16	119	49	12	5	9	103	79	65	571
令4	93	54	31	112	139	71	70	83	127	95	20	14	879
合計												1551	

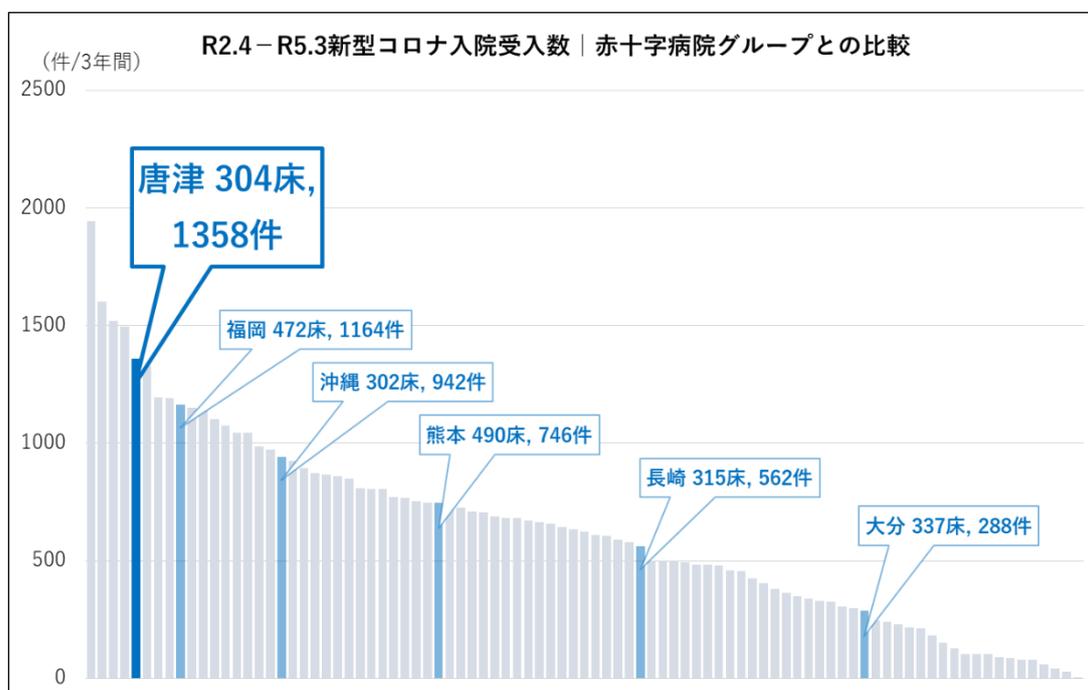
【内訳の一部】85歳以上：254人、小児：233人、妊婦：53人、出産：9人、
死亡：37人

感染症病床への新入院患者数（日次推移）・病床稼働率・新入院受入数





- ・第二種感染症指定医療機関として新型コロナウイルス陽性者の受入に努めました。
- ・本年度は昨年度を上回る受入件数で、体制維持のため一般病棟を閉鎖するなど、行政からの病床確保要請に最大限応じました。



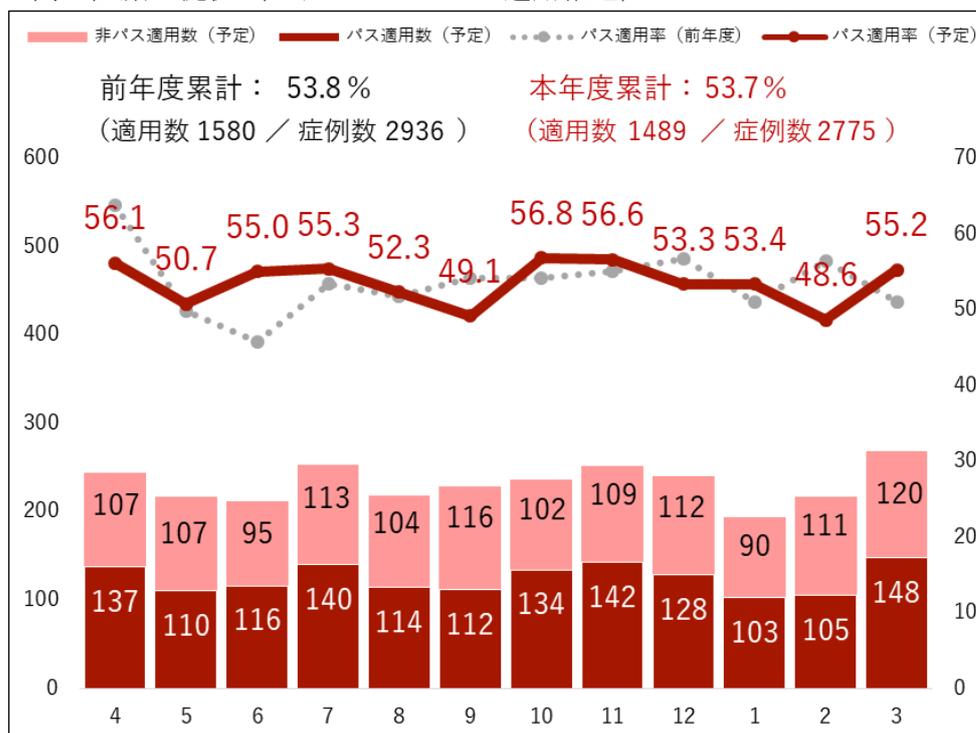
- ・令和2年4月～令和5年3月までの3年間で、赤十字病院グループ全体で5番目に多く新型コロナウイルス入院患者を受け入れました。

災害医療

- ・DMAT 指定医療機関として DMAT を 2 班、日本赤十字社として常備救護班を 3 班常設し、国内で災害が生じた際の派遣要請に応じられるよう体制整備に努めました。

(2) 質改善活動

質の高い医療の提供（クリニカルパスの適用推進）



- ・医療資源を効率的に活用し、かつ、EBM¹に基づいた医療を実践するため、クリニカルパス²の活用を推進しています。
- ・クリニカルパスの適用率は 65%を目標としたが、新型コロナウイルス感染症の影響で外科系の入院患者数が減少しているため、前年度とほぼ同様の水準となりました。

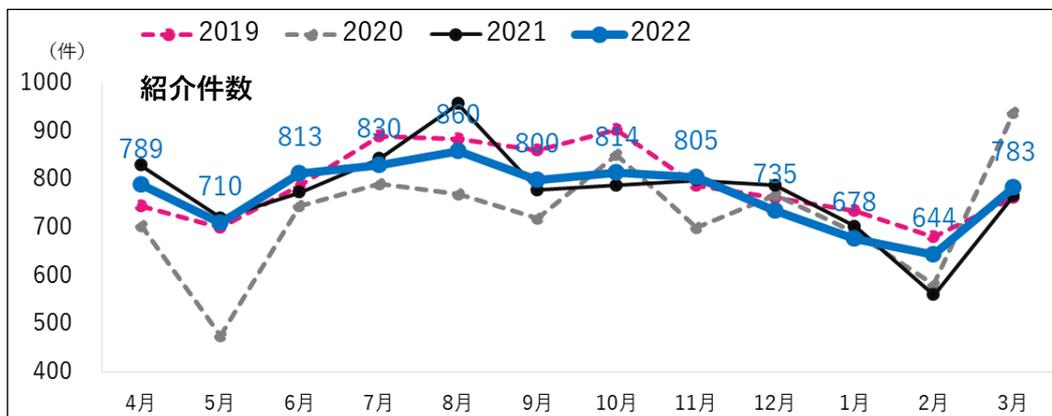
患者満足度の向上

- ・11月に患者満足度調査を外来・入院ともに実施しました。結果は、総合満足度において「満足」の割合は外来 45.3%、入院 63.1%。前年度比は外来 7.2%増、入院 6.8%減となりました。
- ・院内各所に設置したご意見箱から患者さんのご意見やご要望を収集し、患者サービス向上委員会で毎月検討を行い、改善活動に努めています（計 26 件）。
- ・本年度実施した改善活動としては、各病棟への無線 LAN 設置、トイレの各個室への除菌スプレー設置等が挙げられます。

2. 地域医療連携の強化

(1) 地域医療支援病院としての機能強化

地域医療機関との連携



- ・ 紹介件数は見かけ上はコロナ以前の2019年度と大きな乖離はありませんが、唐津保健福祉事務所等のコロナ関連の紹介件数が相当数あり、実質的には減少しています。
- ・ 患者紹介用パンフレットと逆紹介用地域マップを作成し、地域の医療機関との連携強化を図り、集患数アップに努めました。



『診療のご案内』

- ・ 患者紹介用パンフレット
- ・ 262の医療機関に送付

『地域連携医療機関一覧』

- ・ 逆紹介用地域マップ
- ・ 132の医療機関を掲載

PFM (ペイシェント・フロー・マネジメント) ³の推進

PFM 介入件数 (月次推移)

※令和5年3月末時点

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令2	12	16	31	23	24	21	39	32	25	22	29	35	309
令3	37	23	22	30	31	31	48	28	48	39	55	44	436
令4	46	48	33	55	36	36	61	55	46	54	48	58	576

- ・ 円滑な入退院支援のため早期から患者さんの病状・生活状況などの情報収集を行い、退院・転

院に向けた支援・調整に着手するPFMを推進してきました。

- ・介入対象とする疾患数を増加させたことで本年度は年間約550件超となり、前年度比32%増となりました。

高度医療機器の共同利用

- ・CT・MRI装置の共同利用を推進するため、直近5日分の空き状況を地域医療機関に毎日配信しています。

(2) 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化

- ・本年度は地域がん診療連携拠点病院の指定更新年度であり、更新を完了しました。
- ・本年度は放射線治療装置を更新し、4月から症例数を増加させています。

令和4年度：10,088件（前年度※比58%増） ※令和3年度：6,383件

3. 働き方改革の推進

(1) 医療従事者の負担軽減

- ・タスク・シフト、タスク・シェアについて医療従事者等負担軽減委員会で年間計画を策定し、計画に基づき各職種で研修を受講するなど取り組みを進めています。
- ・医師事務作業補助者を増員し外来での陪席業務（6外来）を拡大に努めています。

(2) 医療従事者の確保対策

医師の確保

- ・救急科は3名体制、小児科は7名体制、産婦人科は3名体制と比較的安定的な診療体制を構築できています。
- ・本年度は新たに6名の研修医を受け入れ、計9名の研修医が在籍しています。

看護師・助産師の確保

- ・看護師の採用活動はコロナの影響で応募数が減少しており、募集を6回行いましたが、必要人数を下回りました（28人/30人）。職員による病院紹介動画を作成するなど、採用活動の活性化に取り組んでいます。
- ・認定看護師育成のため、1名を長期研修に派遣しています。

(3) 職員満足度の向上

- ・ストレスチェックを10月に実施し、高ストレス者に対してカウンセリングを受けるよう案内するとともに、高ストレス者の比率が高い部署に対してヒアリングを実施。
- ・職員満足度調査を12月に実施し、得られた結果をもとに職場環境の改善に努めています。

用語解説

1 EBM

- ・Evidenced-Based Medicine の略称、科学的根拠に基づいた医療のこと。ガイドライン等の入手可能で最良の科学的根拠を把握した上で、個々の患者に特有の臨床状況と価値観に配慮した医療を行うための一連の行動指針。

2 クリニカルパス

- ・患者状態と診療行為の目標、および評価・記録を含む標準診療計画であり、標準からの偏位を分析することで医療の質を改善する手法のこと。

3 PFM

- ・Patient Flow Management の略称、入退院に関連する多職種が連携しながら仕事を行い、患者の身体的・精神的・社会的側面の問題をとらえ、退院後を見据えて、最適な医療を提供する手法のこと。

令和4年度 地域住民や看護学生への情報発信

唐津・玄海エリアのケーブルテレビとコラボ

ぴ〜ぶる放送の番組「週刊!キャッチぴ〜ぶる」の健康コーナー「健康美塾」に当院の医師や看護師等が出演。生活習慣病に対する予防と対策を地域住民に情報発信。

第一弾は「脳卒中の予防と治療について」、第二弾は「糖尿病の予防と対策について」（第三弾は現在検討中）。



脳神経外科 鈴山医師

『市民公開講座』を YouTube で動画配信

地域がん診療連携拠点病院の活動の一つとして毎年、市民公開講座を開催。地域住民にがんについての啓発や情報提供を行う。

コロナ禍でも継続して情報発信していくために、ICT を活用。2年目となる。

再生回数 1,467回 (R4.12.22~R5.3.31)



案内用ポスター

看護師のリクルート動画を作成・配信

看護学生を対象に、次年度の新規採用のためのリクルート動画を、看護部と広報推進室とが協働して作成。合同説明会で放映し、当院のホームページでも常時アップ。

コロナ禍でも効果的にリクルート活動を行う初の試みとなった。

再生回数1,165回 (R4.3.11~R5.3.31)

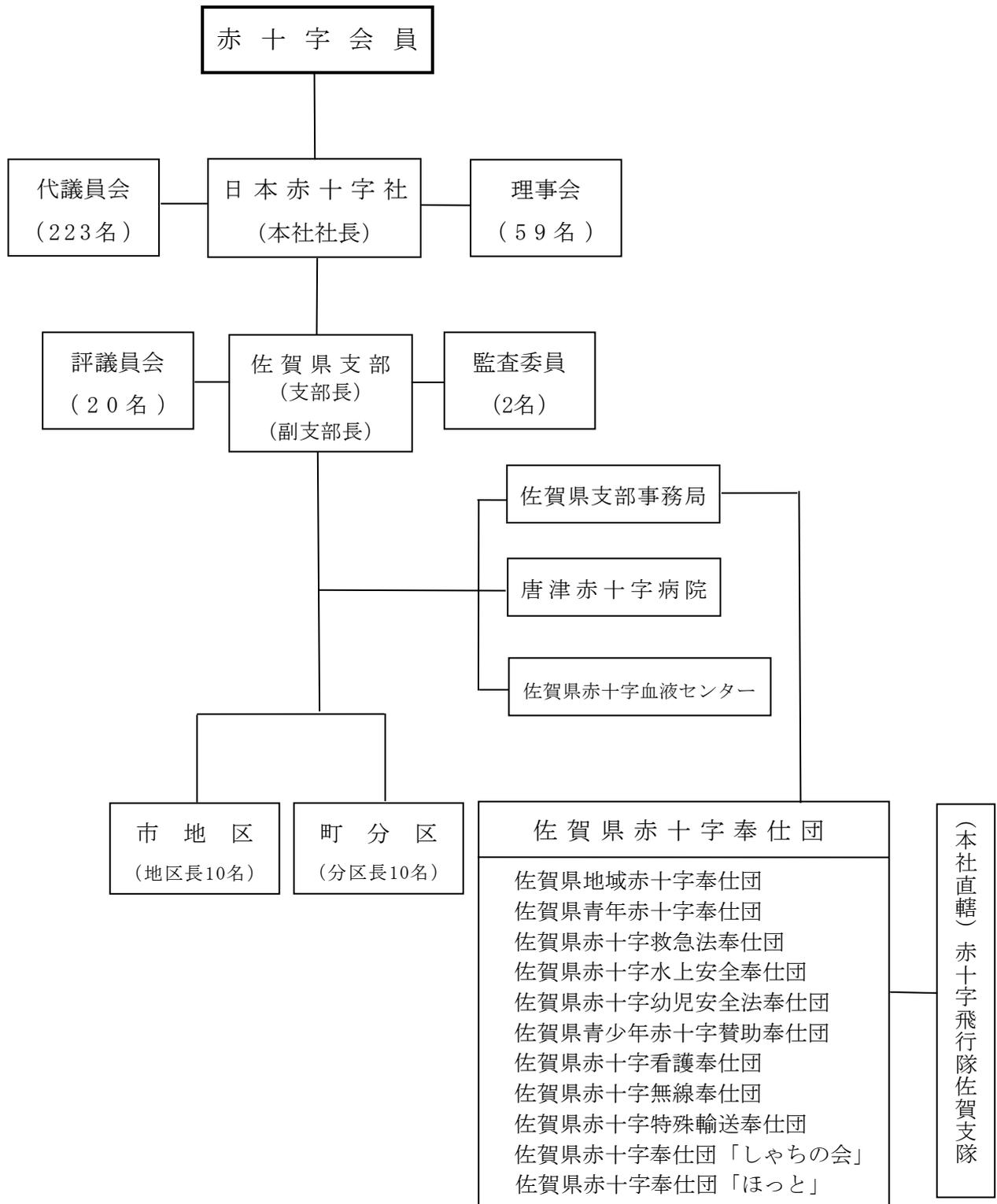


新卒1年目の看護師が出演

10 佐賀県支部の組織・役職員

(1) 組織

(R5年3月31日現在)



(2) 役 職 員

ア 支部役員 (R 5 年 3 月 31 日 現在)

職 名	氏 名	職 名 等
支 部 長	山 口 祥 義	佐賀県知事
副 支 部 長	峰 達 郎	唐津市長
	久 保 山 善 生	佐賀県健康福祉部部長
支 部 監 査 委 員	西 清 澄	元佐銀リース㈱代表取締役社長
	山 田 恭 輔	江北町長

イ 佐賀県支部選出本社役員 (R 5 年 3 月 31 日 現在)

職 名	氏 名	職 名 等
理 事 ・ 代 議 員	中 富 一 榮	久光製薬 (株) 代表取締役社長
代 議 員	中 山 弘 志	(株) 中山ホールディングス 代表取締役社長

ウ 佐賀県支部評議員(R5年3月31日現在)

番号	氏名	支部長・地区選出の別	職名等
1	西 清 澄	支 部 長	元佐銀リース(株)代表取締役社長
2	坂 田 勝 次	支 部 長	株式会社佐賀新聞社専務取締役 経営統括・編集主幹
3	山 口 七 重	支 部 長	佐賀県地域婦人連絡協議会会長 佐賀県地域赤十字奉仕団委員長
4	伊 藤 正	支 部 長	佐賀県社会福祉協議会副会長
5	伊 東 博 巳	佐賀市地区	佐賀市社会福祉協議会会長
6	小城原 直	佐賀市地区	佐賀市自治会協議会会長
7	峰 達 郎	唐津市地区	唐津市長
8	向 門 慶 人	鳥栖市地区	鳥栖市長
9	横 尾 俊 彦	多久市地区	多久市長
10	深 浦 弘 信	伊万里市地区	伊万里市長
11	小 松 政	武雄市地区	武雄市長
12	松 尾 勝 利	鹿島市地区	鹿島市長
13	江里口 秀 次	小城市地区	小城市長
14	村 上 大 祐	嬉野市地区	嬉野市長
15	内 川 修 治	神崎市地区	神崎市長
16	伊 東 健 吾	佐賀中部地区 (神埼郡)	吉野ヶ里町長
17	武 廣 勇 平	鳥栖地区 (三養基郡)	上峰町長
18	脇 山 伸太郎	唐津地区 (東松浦郡)	玄海町長
19	松 尾 佳 昭	伊万里地区 (西松浦郡)	有田町長
20	山 田 恭 輔	杵藤地区 (杵島郡・藤津郡)	江北町長

任 期 自令和4年2月14日 ～ 至令和7年2月13日

エ 日本赤十字社佐賀県支部事務局（R 5年3月31日現在）

職 名	氏 名
事務局長	川久保 三起子
総務課長	廣 田 聡
事業推進課長	原 香 織

オ 唐津赤十字病院（R 5 年 3 月 31 日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
院 長	宮 原 正 晴	脳神経外科部長	鈴 山 堅 志
副 院 長	生 田 光	皮膚科部長	(欠)
副 院 長	田 代 克 弥	形成外科部長	(欠)
事務部長	村 山 仁 志	泌尿器科部長	明 利 浩 行
看護部長	坂 本 美奈子	産婦人科部長	佐 護 直 人
病院長特別補佐	貞 松 徳 美	放射線診断科部長	小 池 真生子
疾病予防センター長	冨 栴 り か	放射線治療科部長	松 村 泰 成
医療安全推進センター長（兼）	生 田 光	リハビリテーション科部長	仙 波 英 之
がん医療推進センター長（兼）	鮫 島 隆一郎	麻酔科部長	嘉手川 繁 登
教育研修推進センター長（兼）	下 田 慎 治	救急科部長	中 島 厚 士
救命救急管理センター長（兼）	中 島 厚 士	病理診断科部長	明 石 道 昭
救命救急センター長（兼）	中 島 厚 士	歯科口腔外科部長	梯 裕 恵
患者総合支援センター（兼）	長 嶋 昭 憲	薬剤部長（兼）	田 代 克 弥
感染管理室長（兼）	田 代 克 弥	医療技術部長（兼）	仙 波 英 之
第 1 内科部長	野 田 隆 博	医療社会事業部長（兼）	酒 井 正
第 2 内科部長	長 嶋 昭 憲	医療技術部技師長	永 石 信 二
第 3 内科部長	福 島 伯 泰	薬剤課長	岩 田 和 弥
感染症内科部長	下 田 慎 治	栄養課長	池 田 敦 子
第 1 循環器内科部長	森 唯 史	検査技術課長	尾 形 正 也
第 2 循環器内科部長	(欠)	放射線技術課長	坂 井 征一郎
小児科部長（兼）	田 代 克 弥	臨床工学技術課長	小 池 昭 男
第 1 外科部長	鮫 島 隆一郎	リハビリテーション技術課長	麻 生 昭 秀
第 2 外科部長	井久保 丹	広報推進室長（兼）	村 山 仁 志
肝胆膵外科部長	神 谷 尚 彦	経営情報課長（兼）	貞 松 徳 美
乳腺外科部長	小原井 朋 成	総務課長	松 本 英 成
呼吸器外科部長	小 島 勝 雄	会計課長	大 森 崇 生
整形外科部長（兼）	生 田 光	医事課長	徳 田 孝 久
眼科部長	緒 方 正 虎	医療社会事業課長	野 方 宏 紀
耳鼻咽喉科部長	(欠)	診療支援課長（兼）	松 本 英 成

カ 佐賀県赤十字血液センター(R 5年3月31日現在)

職 名	氏 名
所 長	松 山 博 之
事業部長	田 中 幸 徳
総務課長	廣 畑 和 代
献血推進課長	田 村 和 士
採血課長	大 町 幸 子
学術情報・供給課長	一ノ瀬 知早子
品質情報課長	大 坪 正 道
医務課長	山 本 恵 子

キ 専任職員数 (R 5年3月31日現在)

施 設 名	職員数
日本赤十字社佐賀県支部	9名
唐津赤十字病院	493名
佐賀県赤十字血液センター	29名

日本赤十字社佐賀県支部の現勢（令和4年度）

1. 沿革

明治22年(1889) 5月28日 日本赤十字社
佐賀県委員部設置
昭和27年(1952) 10月31日 佐賀県支部に改称

2. 会員

個人 228,788人
法人 690法人
(※ 協力を会員を含む社資会員)

3. 役員

支 部 長 山口 祥義 (県知事)
副支部長 峰 達郎 (唐津市長)
" 久保山 善生 (県健康福祉部長)
評 議 員 20人

(本社理事) 中富 一榮
(本社代議員) 中富 一榮 中山 弘志

4. 青少年赤十字加盟校登録数

幼・保稚園	13園	1,368人
小学校	118校	26,843人
中学校	77校	21,120人
義務教育学校	6校	2,344人
高等学校	33校	9,642人
特別支援学校	4校	386人
計	251校(園)	61,703人
指導者数		5,578人

(令和5年3月31日現在)

5. 赤十字奉仕団登録数

地 域	25団	2,641人
青 年	1団	18人
特 殊	9団	217人
計	35団	2,876人

(令和5年3月31日現在)

6. 講習普及活動

区分	指導者	受講者
救 急 法	65人	3,532人
水 上 安 全 法	29人	723人
健康生活支援講習	8人	38人
幼 児 安 全 法	19人	506人
防 災 セ ミ ナ ー	10人	1,227人

(令和5年3月31日現在)

7. 災害等救護

救護班	班数	5班	人員	30人
無線局	基地局	4局	移動局	63局
	救急車	2台	災害救援車	7台
車両等	災害連絡車	2台	カーベーター	1台
			線量計	42台
資器材	エアテント	5張	テント	29張
	ドフラッシュテント	1張	(イージータント)	22張
	医療セット	2組	担架・ベット	46台
	NBC 災害除染セット	1組	非常炊き出し釜	22台
救 援 物 資	緊急セット	476セット	安眠セット	420セット
	毛布	1,363枚	非常食	578食
	バスタオル	705セット	ブルシート	110枚

(令和5年3月31日現在)

8. 医療事業 唐津赤十字病院

施設数	1	診療科	31科	病床数	304床
総患者数	195,152人		1日平均		
入院	83,111人		227.7人		
外来	112,041人		461人		

(令和5年3月31日現在)

9. 血液事業 佐賀県赤十字血液センター

施設数	1	車両台数	18台
移動献血車(再掲)	2台	献血運搬車(再掲)	8台
献血者数		供給数(単位換算)	
成分献血	14,307人	成分製剤	78,404単位
400mL献血	18,983人	全血製剤	0単位
200mL献血	496人		
計	33,786人	計	78,404単位

(令和5年3月31日現在)

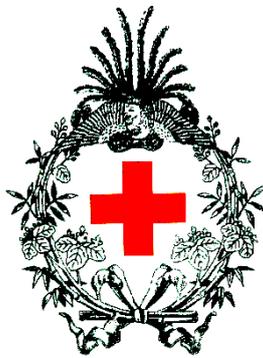
10. 会計(令和4年度歳入歳出決算) 単位:千円

区分	歳入	歳出
日本赤十字社佐賀県支部	354,403	300,353
唐津赤十字病院	10,578,524	9,723,351

11. 佐賀県赤十字有功会(平成9年発足)

会長 中富 一榮
会員数 106(人・法人)

(2023/3/31 作成)



救うを託されている。

- 日本赤十字社佐賀県支部 〒840-0843
佐賀市川原町 2 番 45 号
〔TEL〕 0952-25-3108 〔Fax〕 0952-25-4184
- 唐津赤十字病院 〒847-8588
唐津市和多田 2430 番
〔TEL〕 0955-72-5111 〔Fax〕 0955-72-9530
- 佐賀県赤十字血液センター 〒849-0925
佐賀市八丁畷町 10 番 20 号
〔TEL〕 0952-32-1011 〔Fax〕 0952-32-2002